

故 佐々木 隆先生 のご逝去を悼む



故 佐々木 隆先生

広島文化学園大学人間健康学部学部長

教授 山崎 昌 廣

佐々木 隆先生ご略歴

大正13年 3月14日生	
昭和22年 9月	長崎医科大学卒業
昭和22年10月	熊本医科大学にて医学実地修練開始
昭和23年 9月	同上終了
昭和23年12月	熊本医科大学体質医学研究所研究員
昭和24年10月	熊本大学医学部助手
昭和29年 4月	熊本大学助手（体質医学研究所）
昭和29年 6月	熊本大学助教授（体質医学研究所）
昭和46年 7月	熊本大学教授（体質医学研究所）
昭和59年 4月	熊本大学教授医学部附属遺伝医学研究施設
平成元年 3月	熊本大学停年退職
平成元年 4月	熊本大学名誉教授
平成元年 4月	銀杏学園短期大学教授
平成2年 4月	銀杏学園短期大学衛生技術学科長（平成6年3月まで）
平成6年 3月	銀杏学園短期大学定年退職

佐々木隆先生は、令和元年7月19日（金曜日）、享年95歳にてご逝去されました。佐々木先生は、体力医学の分野において長きにわたり貢献され、体温調節やエネルギー代謝から始まり、晩年の研究課題である生体リズムまで数多くの業績を残されてきました。ここに先生のご功績と、私が先生から学んだことや、いくつかの思い出話を記し追悼の文とさせていただきます。

佐々木先生は、昭和22年9月長崎医科大学（長崎大学医学部）をご卒業になられ、熊本医科大学（熊本大

学医学部）にて医師としての修練を終えられました。その後、熊本医科大学附置体質医学研究所体質衛生学部門（後の生理学部門）に入局され、直ちに基礎医学研究の道を歩まれました。臨床医学の道を選ばなかった理由を伺ったことはありませんが、佐々木先生のお父様は解剖学がご専門で、熊本医科大学学長であったことも基礎医学の道に歩まれたことに影響しているのかもしれませんが。

当時の体質衛生学部門教授は、体温調節研究の大御

所の一人であった緒方維弘先生が務められていました。緒方先生は、佐々木先生の師であり、いうまでもなくその後の佐々木先生のご研究に多大な影響を与えました。佐々木先生からお聞きした話ですが、緒方先生は大変厳格な方で、忘年会の時には静寂の中で医局員が一人一人その年の活動報告を行い、全員が報告を終わるころにはすでに予定時間が半分以上過ぎていたとのことでした。宴会はそれから始まったそうですので、皆さん酔いが回る前に会が終わっていたのかもしれませんが。佐々木先生は、そこまで厳しいことはなく、「私の教室ではそのようなことはないですから、安心していいですよ。」とおっしゃったことが今でも強く印象に残っています。

緒方維弘教授もまた、体力医学分野への功績は顕著で、第14回日本体力医学会大会の大会長を務められています。ちなみに、第54回日本体力医学会大会の大会長は、体質医学研究所体質形態学部門教授であった澤田芳男教授が務められました。佐々木教授の生理学研究部門と澤田教授の体質形態学部門の研究者は、ほぼ毎年日本体力医学会大会に参加し、学会活動を活発に行っていました。

佐々木先生の初期の研究は、主に体温調節の中の産熱に関わるエネルギー代謝でした。基礎代謝量や暑熱環境時のエネルギー代謝測定が中心でした。当時の若い医局員の中には、佐々木先生の指導の下に学位を取得した人が少なからずいたようです。その先生方はほぼすべて開業医となられ、教室の同窓会などのイベントがあるときには毎回参加され、当時の懐かしい昔話に花を咲かせておられました。佐々木先生が若い時代に指導したこのような先生方との昔話は、佐々木先生の楽しみの一つであったように思われます。

筆者が助手として生理学部門に加わった頃には（昭和54年）、助教授1名（久保勝知元女子栄養大学教授）、助手3名、技官3名、教授秘書1名というスタッフでした。昨今の国立大学と比較すると、教授を支える教職員の数は多く、さらに大学から配分される研究費も今と比べるとかなり多かったと記憶しています。当時の助教授の久保先生は神経内分泌学がご専門で、主に脳の生体リズム機構の解析を、ラットを使って研究されていました。一方、佐々木先生は、体質医学研究所で研究を始められた頃から、一貫して人間を対象とした研究をされていました。筆者が研究室に入った頃には、佐々木先生は実験室で実験をすることはなく、コンピュータを駆使して、それまでのデータや助手が集めたデータなどを分析して研究を進められていました。

そのコンピュータですが、当時は穿孔テープを用いて、コンピュータにプログラムやデータを読み込ませ、さらにメモリーが少ないだけに一つのメモリーも無駄にしないでプログラムを工夫して使っていました。佐々木先生は、プログラム言語としてフォートランを

使っておられ、プログラミングが仕事なのかと思われるほど、朝から夕方まで一日中コンピュータ室に閉じこもっておられる日も少なくありませんでした。ちょうどその頃、筆者もコンピュータに夢中になっていたので、佐々木先生からは同じ趣味を持った者が入ってきたと思われたのか、しばしばコンピュータ室に呼ばれ、先生が作成されたプログラムの説明を受けていました。先生が作成されたプログラムのほとんどは生体リズムの解析用で、従来の解析方法をプログラムしたり、佐々木先生独自の分析方法も開発されていました。

佐々木先生は、私が着任したころはすでに生体リズムの研究に集中しておられました。その中で、私の印象に残っている研究の一つは、排便時刻を記録し、その記録から時差ぼけにかかる時間、すなわち海外旅行先の現地時間に適応するまでの時間を解析されたことです。それも先生と奥様の実際の海外旅行時のデータを用いて分析されていたと記憶しています。排便時刻という着想が独特だっただけに、いまでも忘れることができない研究です。また、海外遠征したスポーツチームを対象として、チーム全体としての調子のリズム解析もユニークな研究でした。バレーボール、ホッケーなどの試合の勝敗、取得セット数、得点などをデータとして、海外遠征の際の時差ぼけの影響、チーム力のリズムなどを解析されていました。これらの研究から、データは工夫次第で手に入れることができるということを教えられました。

佐々木先生が特に力を入れていた本に、1978年3月に朝倉書店から刊行された「時間生物学」（佐々木隆・千葉義彦編著）があります。この本は、第一線で生体リズムの研究をしていた先生方が執筆されたもので、生体リズムを研究していた者にとっては非常に参考になる幅広い内容となっていました。ここには、上述した佐々木先生が作成された生体リズム解析のプログラムが付録として掲載され、またスポーツチームのリズムについても記述されていました。この本には、熊本大学時代の後半に行われた、佐々木先生のご研究の集大成が入っていたような気がします。

佐々木先生は常々、「我々の仕事はpublishすることだ」とおっしゃっていました。もちろんこのことは、研究成果を論文としてまとめ、世に発表することを意味しています。この言葉は、研究者としてなすべき仕事を教えてくれる一言だと思って、私はこれまでこの言葉に従い研究者として生きてきました。佐々木先生の研究者としての姿勢を間近に見ることができたことを幸せに思い、先生から薫陶を受けた者の一人として深く感謝しております。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

故 森 本 武 利 先 生 の ご 逝 去 を 悼 む

信州大学名誉教授

能 勢 博



故 森 本 武 利 先 生

森本武利先生ご略歴

1936年 昭和11年 1月17日	滋賀県彦根市に生まれる
1954年 昭和29年 3月	彦根東高等学校卒業
1961年 昭和36年 3月	京都府立医科大学卒業
1962年 昭和37年 5月	京都府立医科大学 助手
1964年 昭和39年 9月 - 41年 8月	米国Illinois大学へ出張
1967年 昭和42年 7月	医学博士 (京都府立医科大学)
1970年 昭和45年10月	京都府立医科大学 講師
1974年 昭和49年 7月 - 50年 8月	米国California大学, Santa Barbara校へ出張
1974年 昭和49年12月	京都府立医科大学 助教授
1978年 昭和53年 4月	京都府立医科大学 教授
1999年 平成11年 3月	京都府立医科大学 定年退職
1999年 平成11年 4月	京都府立医科大学 名誉教授
1999年 平成11年 4月 - 平成17年 3月	神戸短期女子大学 学長
2001年 平成13年 4月 - 平成17年 3月	神戸女子大 学長を併任
専門分野：人体生理学 (水分代謝, 体温調節, 加齢など)	
学会活動：日本体力医学会, 日本生理学会, 日本生気象学会, 日本臨床生理学会 など	
賞： 日本体力医学会賞 (平成7年：運動時の水分代謝と暑熱障害予防) 日本生理学会・久野寧 (くのやす) 賞 (平成10年：微小循環測定法, 平成11年：高張性脱水と皮膚血流量の調節) 秩父宮記念スポーツ医・科学奨励賞 (平成14年：熱中症予防活動に対し)	

森本武利先生は2019年7月18日にご逝去された(享年83歳)。この場をお借りして故人を偲びたい。私は1979年4月に京都府立医科大学を卒業し、すぐ森本教室に入り、それ以降1995年8月に信州大学に転出するまで16年間公私にわたりお世話になった。つい最近まで元気にされているとうかがっていたが、一年ほど前、突然それまでのご自分の半生をつづった小冊子「航跡」を送ってこられた。今から思うと、人生の終盤にさし

かかり先生なりの覚悟ができていたのかもしれない。その小冊子を基に先生のご業績を紹介する。

・**発汗の生理学との出会い (1959年)**：先生が研究を開始されたのは、大学4回生の時に、当時生理学教室教授で日本生理学会の大御所であった吉村寿人(よしむらひさと)先生の導きで、久野寧(くのやす)先生の発汗実験を手伝ったことがきっかけと述べてられ

る。久野先生は発汗生理学の世界的権威で1956年には著書「Human Perspiration, Springfield Illinois」を上梓されており、1963年に文化勲章、1976年に勲一等瑞宝章を受章されている。学生の時に彼の訾咳にふれることができたことが非常に幸運であったと常々周囲におっしゃっていた。

・**Na⁺ ガラス電極による生体液の測定 (1961-62年)** : その後、大学を卒業してインターンを市内の病院で行う傍ら、吉村教授の指導のもと、血液、尿、唾液のNa⁺イオン量を測定し炎光高度計の測定値と比較し論文化された。電極による体液のイオン濃度測定は当時めずらしく各種学会で大きい反響を得たと述べられている(生化学 34(4): 154-158, 1962)。

・**循環血pHおよびPCO₂の連続測定 (1962-64年)** : 現在臨床で用いられている電極法による血液ガス分析の黎明期の研究である。pHガラス電極の電気抵抗下げること、真空管を用いた高入力抵抗の測定回路の作成することに苦労したこと、また、PCO₂電極についてはpH電極をセロファン膜で覆い電極との間隙をNaHCO₃液で浸し、その膜を通して拡散するCO₂によるpHを測定しようとしたが膜が脆くなかなかうまくいわず苦労したこと、それでも何とかこれらの諸問題を克服して電極と測定器を完成させ運動時の呼吸促進機序に関する研究に用いたことが述べられている(Jpn J Physiol 14: 630-637, 1964)。

・**体温調節反応の性差、汗のpH (1964-66年)** : 吉村教授の推薦で、FulbrightのTravel Grantの試験に合格し、同財団の支援を受け渡米し、Illinois大学のF Sargent II教授のもと体温調節反応の性差に関する研究を行われた。この研究結果は、体温調節反応の性差に関する初めての論文で現在でも広く引用されている(J Appl Physiol 22: 526-532, 1967)。また、Illinois大学滞在中に汗の組成と汗のpHの関係についてNature誌に論文が掲載された(Nature 2116: 813-814, 1967)。これらの研究が認められ、Academic Press (London)から執筆を依頼されたことと述べられている(Physiology of sweat gland, In: Physiology and Pathophysiology of the Skin (vol 5) pp1597-1666, 1978)。

・**血液体液の季節変動と日内変動 (1966-74年)** : 学生2名を対象に3日ごとに基礎条件で採血し、その血液について約30項目について測定を行われた。その結果、これらの測定項目が夏、冬いずれも変動したが、血清イオンの変動幅は極端に小さく、対照的にこれらを調節するための抗利尿ホルモンの変動は大きいことを報告された(Advances in Climatic Physiology, Igaku-shoin, Tokyo, pp381-394, 1972)。

・**運動時の体液調節 (1974-75年)** : 大学紛争でペースのおちた研究を取り戻したいという思いで、California大学、Santa Barbara校のSM Horvath教授の研究室に留学し、イヌを用いた運動時の血液量調節に関する研究を行われた。この際、血液量の変動の評価に離散的に採取した血液のヘマトクリット値を用いたがその測定精度が悪く、以前、pHの測定で手掛けたような連続測定法の開発が必要である、と痛感されたという。

・**循環血液量の調節機序の解析 (1975-85年)** : 帰国後、さっそく、この課題に取り組まれた。運動時の血液量

に最も影響を及ぼすのは脈管内外の静水圧と膠質浸透圧の差である(スターリングの仮説)。そこで、これらの連続測定方法の開発に取り組みされた。血液量はCr-51でラベルした赤血球の濃度希釈法、膠質浸透圧は市販されている限外ろ過膜を用いられた。イヌを用い、輸液、脱送血時の静水圧と膠質浸透圧を急性に変化させた場合のそれぞれの変化をコンピュータで連続測定し、スターリングの仮説に基づく血液量変化をこれらの測定パラメータを用いた数理モデルで表すことに成功された。当時、コンピュータを使った生理実験はまだ、めずらしく、自動制御工学の生体への応用という点で高い評価を得られた(Jpn J Physiol 40: 165-179, 1990)。

・**自発性脱水の機序・飲水の調節機構の解析 (1980年以降)** : 血液量の調節は急性には脈管内外の水分移動によって行われるが、最終的には水分・塩分摂取と腎による調節による。温熱脱水回復時に焦点を当て、ヒト、ラットを対象にこのテーマに精力的に取り組まれた。その結果、暑熱環境に暴露された場合、ヒトは汗の中(ラットは唾液の中)に塩分を排泄するので、その回復期において、もし真水だけを摂取しても体液は完全には回復しない。すなわち、脱水回復時の塩分摂取の重要性を生理学的なメカニズムから明らかにされた。これは、当時、普及しつつあるスポーツドリンクの学術的裏付けを提供する結果となり社会的インパクトの高いものとなった(J Basic & Clin Physical & Pharmacol 9: 51-72, 1998)。ちなみに、私はこの時の業績が評価されYale大学、John B Pierce研究所、ER Nadel教授のもとへ留学する機会をいただいた。

・**暑熱障害の疫学・熱中症予防 (1990年以降)** : 当時から運動中の熱中症は社会問題となっていた。そこで、日本体育協会へ熱中症予防に関するガイドラインの作成を提案された。その結果は「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック、日本体育協会、東京、1994」として発行された。

そのほか、当時講師だった吉崎和男(よしざきかずお)先生(のち徳島大学教授)らを中心とした核磁気共鳴法による非破壊的生体試料を用いたエネルギー代謝関連分子、体液関連分子の動態測定法の開発と臨床応用に関する研究にも関わられた。

以上、森本先生のご業績を振り返った時、「物理化学」を基盤とした人体生理学である。先生は、よく生理学は「概念(コンセプト)の学問」といわれていた。ある生体现象を発見した時、それを説明するメカニズムを考え、それを証明することが生理学の醍醐味だというのだ。昔、インド航路で熱力学の法則が発見されたときの逸話とイメージが重なる。教室には数学、物理学の好きな学生が多く集まった。そして、体育学、栄養学の好きな学生も。今でも思い出す。実験装置を自作するために旋盤を操作されている時の姿。歴代の教室で使われてきた大きい古い机で繰り広げられた白熱した議論、そして飲み会。外国から著名な学者が来られた時に自宅で催された素敵なお夕食会。温かいご家族4人と大きい白い秋田犬2匹。ありがとうございました。(合掌)

第75回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第75回日本体力医学会大会を下記の通り鹿児島県鹿児島市において開催いたします。

全国から多くの会員の皆さまのご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第75回大会ホームページ（<http://ltd-css.jp/jspfsm75/>）をご覧ください。
学会の最新情報は順次アップしていきます。

記

1. 会 期：令和2年9月24日(木)、25日(金)、26日(土)
2. 会 場：鹿児島大学 郡元キャンパス
(鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21-24)
3. 大 会 長：徳田 修司
(鹿児島大学名誉教授・鹿屋体育大学特任教授)
4. 大会事務局：鹿屋体育大学 運動生理学研究室内
第75回日本体力医学会大会事務局
事務局長 與谷 謙吾（鹿屋体育大学 スポーツ生命科学系 准教授）
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
運営事務局：株式会社CSS内
第75回日本体力医学会大会運営事務局
〒891-0116 鹿児島市上福元町6380-9
TEL：099-298-1511 FAX：099-298-1512
Email：jspfsm75@ltd-css.jp
5. 大会プログラム（予定）
 - (1) 大会長講演
 - (2) 特別講演
 - (3) 教育講演
 - (4) シンポジウム
 - (5) 国際セッション
 - (6) ワークショップ
 - (7) 一般研究発表（口演・ポスター）
 - (8) ランチョンセミナー
 - (9) 県民・市民公開講座
 - (10) 持久走大会
 - (11) その他

注1.) 一般研究発表、公募制プログラムの申し込み等については、決定次第、お知らせいたします。

注2.) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員ではなくても構いません。会員及び非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

第74回日本体力医学会大会（茨城）を終えて



第74回日本体力医学会大会大会長
筑波大学・名誉教授

田中 喜代次

まずは、各方面からのご支援を賜り、第74回日本体力医学会大会を無事開催することができたことに心より御礼申し上げたい。つくば国際会議場の大ホールにて大会長の簡潔な挨拶と開会宣言とともに始まった大会は、つくば市長（五十嵐立青氏）による歓迎と激励の素晴らしいスピーチ、筑波大学長（永田恭介氏）による大会名誉会長としての視座（Imagine the Future）に富んだ講演、そして大会長講演「健康、未病、病気、従病の精神とメディカルフィットネス」を皮切りに、3日間（9/19-21）で講演8件、学会賞受賞論文に関する講演4件、シンポジウム135演題、ランチョンセミナー7演題、ワークショップ・イブニングセミナー8演題、英語での発表20演題、一般発表（口頭350演題、ポスター490演題）がなされ、非常に充実した内容となった。一般演題のカテゴリは、神経・感覚、運動器、呼吸循環、血液・免疫、体液・内分泌、代謝、形態・体構成、栄養・消化、加齢・性差、スポーツと疾患、リハビリテーション・運動療法、生活・健康、トレーニング、バイオメカニクス、環境、遺伝子、その他のスポーツ医学研究などであった。発表の合計は1千演題を超え、企業展示や書籍販売が45件（+広告27件、寄附5件、協賛3件）にのぼり、3日目には午前7時より恒例の持久走大会を無事に終えた。なお、前日の18日からInternational Brain Research Organization（IBRO）によるpre-conferenceが開催され、初日の18時すぎまでEuropean College of Sports Science（ECSS）からの研究者を含め、中ホールにて英語による研究発表・討論が行なわれた。このように盛り沢山の内容となった大会であったが、3日間にわたり9-10の会場にて同時並行でシンポジウムや一般発表が続いたため、フルタイムで出席しても拝聴できない演題が多数にのぼったという点で、主催者側として慚愧に堪えない思いであった。

筆者は、運動実践時における内服薬の重要性（秋下氏）なる基調講演、生涯現役社会～疾患の性質変化と医療の在り方～（江崎氏）、ワークショップ、大塚スポーツ医科学賞受賞講演、生涯にわたるスポーツ活動への提言（シンポジウム8）、身体活動の普及戦略（シンポジウム22）、日本体力医学会における運動療法ガイドライン策定に向けた取り組み（シンポジウム27）などを拝聴した。秋下氏は、筆者の講演の一部をサポートするように、高齢者に観られる多病ゆえの多剤に対する再考の必要性について、薬剤起因性老年症候群なる副作用を中心に巧みに語った。江崎氏は、高齢化に伴い医療費が増加することへの対策としてイノベーションが必要だと異口同音に世界中の先進国が唱えるが、その仮説が誤っているという衝撃的な発言のもと、自身の仮説を披露し、超高齢化社会においては持続可能な社会保障システムの実現とともに、健康を支える新たな産業群の育成が重要と締めくくった。

シンポジウム8では、スポーツ活動が学童期の健全な発育・発達に、中年期の呼吸循環系機

能の強化や生活習慣病対策に、高齢期の日常生活機能保持に、障がい者を有する人の体力低下抑制や生きがいに繋がることを討議した。その中で、運動・スポーツの効果と危険性の両面の視点から、地域包括支援システムの中にヘルス（メディカル）リテラシー向上のための支援教育の機会を提供することの必要性を、そしてリテラシーを高めた地域住民や企業の社員自らが健康サポーターとなってメタボ、ロコモ、フレイルなどに該当する国民の元気長寿支援に関わることの意義について議論した。

シンポジウム27では、筆者が司会者や演者に対して、欧米諸国ではexercise therapyが使用されないことを理由に、“運動療法”なる呼称を“メディカルフィットネス”へ改名することを提言した。また、中性脂肪 ≥ 150 mg/dlやLDLコレステロール ≥ 140 mg/dlを脂質異常症とする定義上の問題点（academic harassmentに相当しうる）について発言した。また、別の学会員からは、脂質異常症の治療を受けている人が運動する場合、内服薬の影響（通常は数値が低下）をいかに考慮して指導していくのか、といった問題提起がなされた。司会者、演者、フロアにいる聴講者らと密に議論する時間が不十分で、他の多くのシンポジウムと同様、本シンポジウムも消化不良的に終わってしまった感が否めないが、それぞれの発言は意味深いものであった。

学術大会に参加された多くの会員からは、特別講演や教育講演、シンポジウムが内容的に充実しており、学会会場の設備が良好で、満足度の高い大会であったとの賞賛の声を頂戴できた。その背景には、学術大会の開催に向けて絶え間ない努力を傾けていただいた前田清司教授（事務局長）、宮川俊平教授（副大会長）、征矢英昭教授（副大会長）、大藏倫博准教授（副事務局長）、中田由夫准教授（事務局、組織委員）、渡部厚一准教授（組織委員）、鍋倉賢治教授（組織委員）をはじめ、筑波大学体育系と医学医療系の先生方、大学院生、茨城県内の大学や研究所の多数の先生方の献身的な準備活動があったからに他ならない。最後に、茨城県内での開催に際して、計画初期の段階より鈴木政登理事長、西平賀昭副理事長、永富良一副理事長、碓井外幸常務理事、そしてその他の理事から献身的に助言や激励の言葉をいただいた。ここに衷心より深く感謝の意を表したい。

一般社団法人 日本体力医学会 定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本体力医学会と称する。英語名は、The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicineと表示する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に設置することができる。

(地方会)

第3条 この法人は、社員総会の議決を経て、地方会を置くことができる。

2 地方会の組織及び運営に関し必要な規定は、理事会において定める。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第4条 この法人は、日本国内外における体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかり、もって我が国の学術の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 体力医学に関する学術講演会などの開催
- (2) 機関誌その他の刊行物の発行
- (3) この法人が関係する内外の関連団体との連絡及び協力
- (4) 研修会の実施と称号の授与
- (5) 体力医学の振興ならびに、普及、啓発
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(学術講演会)

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

2 国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会は、この法人の学会大会として、原則として国民体育大会の開催地で行われる。

第3章 会 員

(法人の構成員)

第7条 この法人の会員は、次の4種とする。

- (1) 正 会 員 体力医学に関する学識経験を有し、この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 名 誉 会 員 この法人の発展に関して学術上の功績が特に著名な者で、理事会が推薦し社員総会で承認された個人
- (3) シニア会員 名誉会員に準ずる会員で、別に定める要件を満たした会員からの申請により理事会で承認された個人
- (4) 賛 助 会 員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

2 この法人は、正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

(入 会)

第8条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第9条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、毎年、会員は、社員総会において別に定める額の会費を支払う義務を負う。ただし、名誉会員はこの限りでない。

2 既納の会費は、いかなる場合でも返還しない。

(任意退会)

第10条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき.
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき.
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき.

(会員資格の喪失)

第12条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第9条の支払義務を2年以上履行しなかったとき.
- (2) 総正会員が同意したとき.
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき.

第4章 社員総会

(構成)

第13条 社員総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第14条 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 事業報告及び貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）等の承認
- (5) 会費の額
- (6) 理事会で付議したもの
- (7) 定款の変更
- (8) 解散及び残余財産の処分
- (9) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第15条 社員総会は、定時社員総会として毎事業年度終了後3箇月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時社員総会を開催する。

(招集)

第16条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

(議長)

第17条 社員総会の議長は、理事長がこれにあたる。

(議決権)

第18条 社員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第19条 社員総会の決議は、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う。
 - (1) 会員の除名
 - (2) 監事の解任
 - (3) 定款の変更
 - (4) 解散
 - (5) その他法令で定められた事項
- 3 社員総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面もしくは電磁的方法をもって議決権を行使し、又は他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
- 4 前項の場合における第1項、第2項の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

第20条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

第5章 役員等

(役員を設置)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上25名以内
- (2) 監事 4名以内

- 2 理事のうち1名を理事長、2名を副理事長、1名を常務理事とする。
- 3 理事長を一般社団・財団法人法上の代表理事とし、副理事長及び常務理事を業務執行理事とする。

(役員を選任)

第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
- 4 役員を選出についての細則は別に定める。

(理事の職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副理事長及び常務理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を分担執行し、理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会で定めた順序により、その職務を代行する。
- 4 理事長、副理事長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げない。

- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げない。
- 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 4 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第26条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

第27条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

第6章 理事会

(構成)

第28条 この法人に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第29条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職
- (4) 社員総会に付議すべき事項の決定
- (5) 細則及び規則類の制定、同改廃の決定

(招集)

第30条 理事会は、理事長が招集する。

(議長)

第31条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(決議)

第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定に関わらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる理事の全員が書面・メール又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。但し、監事が異議を述べ

たときは、その限りではない。

(議事録)

- 第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第7章 評議員及び評議員会

(評議員)

- 第34条 この法人に、評議員を置く。
2 評議員は、理事会で選任する。
3 評議員は、評議員会を構成し、理事会の諮問に応じ、意見を述べることができる。
4 評議員の互選により、評議員会長を置く。

(評議員会)

- 第35条 評議員会は、毎事業年度に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。
2 評議員会は、評議員会長が招集する。
3 評議員会の議長は、評議員会長とする。
4 評議員会は、理事会の諮問に応じ、第14条に定める社員総会の決議事項のほか、この法人の運営全般について意見を述べるができる。
5 評議員会の決議は、評議員現在数の過半数が出席し、出席した当該評議員の過半数をもって行う。

第8章 資産及び会計

(事業年度)

- 第36条 この法人の事業年度は、毎年8月1日に始まり翌年7月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。
3 第1項で承認された事業計画・収支予算は直近の社員総会に報告しなければならない。

(事業報告及び決算)

- 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て、定時社員総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。
(1) 事業報告
(2) 事業報告の附属明細書
(3) 貸借対照表
(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間（また、従たる事務所に3年間）備え置くものとする。
(1) 監査報告
(2) 理事及び監事の名簿

(剰余金の分配)

- 第39条 この法人は、剰余金の分配は行わない。

第9章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

- 第40条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

(解 散)

- 第41条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

- 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第10章 公告の方法

(公告の方法)

第43条 この法人の公告は、この法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第11章 事務局

(事務局の設置等)

第44条 この法人の事務を処理するために、事務局を設置する。

- 2 事務局には、所要の職員を置く。
- 3 職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により理事長が別に定める。

第12章 補 則

(委 任)

第45条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する事項は、理事会の決議により別に定める。ただし、この定款の施行についての細則は、理事会及び社員総会の決議を経て、別に定める。

附 則

- 1 この法人は、その主たる事務所の所在地において設立の登記をすることにより成立する。
- 2 任意団体の日本体力医学会の正会員、名誉会員、賛助会員であって、第7条に規定する正会員、賛助会員の資格を有する者及び団体は、第8条の規定にかかわらずこの法人成立の日にこの法人に入会したものとみなす。
- 3 任意団体の日本体力医学会の評議員は、この法人成立の日にこの法人の評議員に選任されたものとみなす。
- 4 この法人の最初の理事の任期は、平成27年開催予定の定時社員総会終結の時までとする。
- 5 第7条第2項の規定にかかわらず、この法人の設立時社員は、次のとおりとする。

設 立 時 社 員 (住所記載省略)

下 光 輝 一

設 立 時 社 員 (住所記載省略)

小 野 寺 昇

- 6 この法人の設立時役員は、次のとおりとする。

設 立 時 理 事 荒 尾 孝

設 立 時 理 事 碓 井 外 幸

設 立 時 理 事 大 野 誠

設 立 時 理 事 小 野 寺 昇

設 立 時 理 事 勝 村 俊 仁

設 立 時 理 事 川 久 保 清

設 立 時 理 事 川 原 貴

設 立 時 理 事 栗 原 敏

設 立 時 理 事 坂 本 静 男

設 立 時 理 事 定 本 朋 子

設 立 時 理 事 下 光 輝 一

設 立 時 理 事 下 村 吉 治

設 立 時 理 事 鈴 木 政 登

設 立 時 理 事 武 政 徹

設 立 時 理 事 竹 森 重

設 立 時 理 事 田 中 喜 代 次

設 立 時 理 事 田 中 宏 暁

設 立 時 理 事 田 畑 泉

設 立 時 理 事 鳥 居 俊

設 立 時 理 事 永 富 良 一

設 立 時 理 事 西 平 賀 昭

設 立 時 理 事 浜 岡 隆 文

設 立 時 理 事 福 永 哲 夫

設 立 時 理 事 山 内 秀 樹

設 立 時 理 事 吉 岡 利 忠

設 立 時 代 表 理 事 下 光 輝 一

設 立 時 監 事 小 林 康 孝

設 立 時 監 事 能 勢 博

一般社団法人 日本体力医学会 定款施行細則

第1章 通 則

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第45条に基づき、会員、役員及び評議員の選出、委員会、学術集会等に関する諸規程を設ける。

第2章 会 員

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 年額 10,000円
- (2) シニア会員 年額 5,000円
- (3) 賛 助 会 員 年額 1口以上（1口50,000円）

2 会費は年度末までにそれぞれ納入しなければならない。

3 正会員、シニア会員ならびに名誉会員は、学術講演会及び機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌等の頒布を受けるものとする。

4 賛助会員は、機関誌の頒布を受けるものとする。

第3条 シニア会員の認定は、本人の申請により理事会で行う。

2 シニア会員の認定を受ける正会員は、次のいずれも満たす者とする。

- (1) シニア会員を申し込むときの年齢が満70歳以上であること。
- (2) 日本体力医学会の正会員歴20年以上であること。

3. シニア会員の認定を受けた者は、評議員の資格を喪失する。

第3章 評議員の選出等

第4条 評議員の選出は、推薦された評議員候補のうちから選考委員会の議を経て、評議員会で選任する。

2 評議員の選出に必要な事項は、別に「評議員選考内規」に定める。

第4章 理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等

第5条 理事候補者、評議員会長候補者及び監事候補者は、別に定める「選挙管理規程」に従い、4年毎に評議員の選挙によって選出する。

2 理事については、定款の規定により任期満了となる選任2年後の社員総会において、理事再任の承認を得ることにより、在任期間を4年とする。

第5章 委 員 会

第6条 この法人にその事業遂行のために、次の常設委員会を置く。

- (1) 総務委員会
- (2) 編集委員会
- (3) 学術委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 評議員選考委員会
- (6) 渉外委員会
- (7) 倫理委員会
- (8) 利益相反委員会

2 各常設委員会の任務，任期，定員等は，別に定める。

第7条 この法人に，常設委員会の他，総会又は理事会の決議により必要があると認めるときは特定の事項を行わせるため特別委員会を置くことができる。

第6章 学術講演会，大会長等

第8条 学術大会に大会長を置く。

第9条 大会長は，理事会が推薦し，社員総会で選任する。

2 大会長は，当該年度の学術集会を組織し運営にあたる。

3 学術集会の運営等に関する規程は，別に定める。

第10条 大会長は，理事長の判断により必要な理事会に出席する。但し，議決権を持たない。

第11条 この法人は，理事会の議を経て，学術講演会，研修会，市民公開講座等を開催できることとする。

第7章 顧 問

第12条 この法人に，1名以上5名以内の顧問を置くことができる。

2 顧問は，この法人における理事長の経歴を有する者で，次の職務を行う。

(1) 理事長の相談に応ずること。

(2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。

3 顧問の選任及び解職は，理事会において決議する。

4 顧問は，無報酬とする。

第8章 表 彰

第13条 この法人は，日本体力医学会学会賞等を設ける。各賞に関する事項は，学会賞選考委員会規程に定める。

第9章 補 則

第14条 この細則の変更は，社員総会の決議を経なければならない。

附 則

1. この細則は，この法人成立の日から施行する。



体力科学投稿規定

改訂：2019（令和元）年11月15日

I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turuiin.co.jp

IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
 - 本文ファイル：Microsoft Office Word
 - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：1頁あたり5,000円の掲載料を著者が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）カラー頁は、1頁あたり20,000円の掲載料を著者が負担する。別刷料は著者負担とする。なお、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき10,000円の掲載料を負担する。地方会抄録の掲載料は原則無料とする。ただし、地方会大会事務局が認めた非学会員の抄録掲載料は、1演題あたり3,000円とする。その他、学会大会および地方会大会で大会事務局が招聘した発表抄録の掲載料は原則無料とする。

H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕 E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。また、責任著者名の右にアスタリスク（*）を付し、責任著者のE-mailアドレスを記入する。2頁目には英文抄録とkeywords、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、keywords（5語以内）を付ける。KeywordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。
 - 例1：長島¹⁾によれば……………
 - 例2：手島と角田²⁾によれば……………
 - 例3：馬³⁾によれば……………
4. 文献表の作り方
 - 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。doiの記載を推奨する。
 - 2) 雑誌から直接引用する場合
 - 番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。
 - 例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.279.
 - 例2：手島貴範, 角田直也：身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.195.
 - 例3：馬 佳濤, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.185.
 - 3) 単行本から引用する場合
 - 番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。
 - 例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.
 - 4) 訳本から引用する場合
 - 著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。
 - 例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）, 運動処方



の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.

5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006. doi:10.3177/jnsv.52.233.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 - and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008. doi:10.1254/jphs.08097FP.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagasaki M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート, 資料および事例報告 (症例報告を含む)

原著及び総説の投稿規定に準ずる. 但し, ノートおよび事例報告 (症例報告を含む) は原則として刷り上がり 4 頁以内, 図表は 2 点までとする.

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は, 体力科学編集委員会の依頼による.

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり 10 頁以内を原則とする.

2) いずれの原稿も表題, 著者名, 所属などは体力科学投稿規定 V-A に準じて英文名を附す. 教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが, 依頼総説では体力科学投稿規定 V-A に準ずる.

D. 地方会の抄録

原稿は, 一編 900 字以内で表題, 著者名, 所属, 本文を和文で記す.

※提出期限に遅れた場合, 本誌に掲載されない.

E. その他 (Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など)

※Letter to the Editorの項では, 本誌に掲載された原著, 総説, その他の掲載内容についての質問, 疑問, コメント等を編集委員会に寄せ, それに対する回答を執筆者に求め, その内容を掲載する. 質問者も回答者もすべて実名とする.

VI. 倫理・利益相反

A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では, その実験は1964年のヘルシンキ宣言 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) で承認された倫理基準, または2014年12月に文部科学省および厚生労働省により制定された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000069410.pdf>) に従って実施されなければならない. また, ヒト遺伝子を取り扱う実験は, 日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究 (http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html) に従ってなされなければならない. 日本体力医学会編集委員会では, 所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける. 当該研究がこれらのガイドラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し, さらに所属機関の倫理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする.

- B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の動物実験委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm）に基づき、該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。
- また、記載例に倣って、論文末尾にCOIに関して記載するものとする。項目が網羅されていれば簡潔にまとめて記載できるものとする。記載箇所は参考文献の前とする。

COIに記載を求める事項

- ①当該研究者の所属企業名（部署名，職名）
- ②当該企業からの出資（出資がある場合）
- ③当該研究への関係企業の関与について（研究結果の学会発表や論文発表の決定に関して関係企業が影響力の行使を可能とする契約の有無）
- ④当該研究結果に影響を与えうる企業からの労務提供としての受け入れになっていないか
- ⑤その他、利益相反として申告すべきこと

記載例

- ・ A（著者）はZ社（企業）の社員（取締役・顧問）である。
- ・ Bの配偶者はY社の取締役（顧問）である。ただし、本研究の結論にY社の影響はない。
- ・ CはX社から研究費を受けた。ただし、本研究の結果解釈や結論にX社の関与はない。
- ・ DはV社から講演料を受けた。ただし、本研究の結論にV社の影響はない。
- ・ EはU社の特許を有している。ただし、本研究の結果解釈や結論にU社の関与はない。
- ・ FはT社から会議参加の費用提供を受けた。ただし、本研究の結果解釈や結論にT社の関与はない。
- ・ GはS社から販促資料執筆に対して謝礼を受けた。HはR社より労務提供を受け入れた。ただし、本研究の結論にS社およびR社の影響はない。
- ・ Iに利益相反はない。
- ・ 共著者全員が利益相反はない。

定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に上記の最後の例、「利益相反自己申告：著者全員が利益相反はない」と記載するものとする。

Ⅶ. 著者の資格と著者貢献

投稿に際しては、the International Committee of Medical Journal of Editors（ICMJE）の recommendations（<http://www.icmje.org/recommendations/browse/roles-and-responsibilities/defining-the-role-of-authors-and-contributors.html#two>）にしたがって、投稿原稿の研究における全ての著者の貢献（役割）を明確に説明するものとする。ICMJEでは、以下に示す4つの事項すべてを満たす者が著者であるとしており、これらの条件を満たさない研究者は謝辞に記載する。

- 1) 研究の概念化やデザインなど研究計画の立案、得られたデータの分析や解釈に十分な貢献がある。
- 2) 研究の重要な内容に関して、論文原稿の執筆あるいは推敲している。
- 3) 研究論文の発表に関して、最終的な承認を行っている。



- 4) 研究内容の正確性や完全性に関連する質問が適切に調査あるいは解決されることを保証する上で、作業のすべての側面に対して責任を負うことに同意する。

著者の役割は、最終原稿と共に印刷・公表される。したがって、当該研究における貢献を正確に反映する必要がある。

著者の役割の記載例にしたがって、投稿原稿の最後に、著者は著者全員の研究論文に対する貢献について、著者のイニシャルを使って記載するものとする。

記載例

- ・著者A、著者Bと著者Cは、研究デザインとプロトコルを概念化し、研究機関を決定した。著者Dはデータ収集と組み立てを担当した。著者Eはデータの分析と解釈を担当した。草稿は著者Aが担当した。すべての著者は、原稿を批判的にレビューし、修正し、投稿を承認した。
- ・著者Aは、血液疾患および移植に関する患者データの分析ならびにその解釈を担当した。著者Bは、腎臓の組織学的検査を担当し、かつ原稿の執筆に大きな貢献をした。すべての著者は、最終原稿を熟読した上で、投稿を承認した。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

論文の分類

I 生理科学的研究

- I - 1 神経, 感覚
 - I - 1 - a 末梢神経
 - I - 1 - b 中枢神経
 - I - 1 - c 感覚
 - I - 1 - d 運動制御
- I - 2 運動器
 - I - 2 - a 筋生理
 - I - 2 - b 筋生化学
 - I - 2 - c 骨, 関節
- I - 3 呼吸, 循環
 - I - 3 - a 呼吸
 - I - 3 - b 心臓
 - I - 3 - c 末梢循環
- I - 4 血液, 免疫
 - I - 4 - a 血液
 - I - 4 - b 免疫
- I - 5 体液, 内分泌
 - I - 5 - a 体液, 汗, 尿
 - I - 5 - b 内分泌
- I - 6 代謝
 - I - 6 - a エネルギー代謝
 - I - 6 - b 糖代謝
 - I - 6 - c 蛋白代謝
 - I - 6 - d 脂質代謝
- I - 7 栄養, 消化
 - I - 7 - a 栄養
 - I - 7 - b 消化, 吸収
- I - 8 形態, 体構成
- I - 9 加齢, 性差
 - I - 9 - a 発育発達
 - I - 9 - b 老化
 - I - 9 - c 性差
- I - 10 環境
 - I - 10 - a 温湿度
 - I - 10 - b 気圧, 風圧
 - I - 10 - c 低酸素
 - I - 10 - d 高酸素

I - 11 トレーニング

- I - 11 - a 呼吸, 循環
- I - 11 - b 代謝
- I - 11 - c 筋骨格系他
- I - 11 - d 体組成
- I - 11 - e その他

I - 12 生活, 健康

- I - 12 - a 休養, 疲労
- I - 12 - b 健康管理
- I - 12 - c 疫学

I - 13 バイオメカニクス

- I - 13 - a 力学的情報
- I - 13 - b 動作分析
- I - 13 - c その他

I - 14 遺伝子

- I - 14 - a 遺伝子多型
- I - 14 - b 遺伝子制御
- I - 14 - c その他

I - 15 その他

II スポーツ医学的研究

II - 1 スポーツと疾患

- II - 1 - a 呼吸器疾患
- II - 1 - b 循環器疾患
- II - 1 - c 代謝疾患
- II - 1 - d スポーツ外傷
- II - 1 - e スポーツ障害
- II - 1 - f スポーツ歯科
- II - 1 - g その他の疾患

II - 2 リハビリテーション, 運動療法

- II - 2 - a リハビリテーション
- II - 2 - b 運動療法

II - 3 薬物, ドーピング

II - 4 スポーツ心理学

II - 5 その他



JPFSM : Instructions for Authors

November 15, 2019

*An Official Journal of the Japanese Society of
Physical Fitness and Sports Medicine*

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM) is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, case reports, study protocol, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. If English is not the authors' first language, the Editorial Committee recommends the manuscript receives professional editing service before submitting their manuscript to the Journal. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)

The Journal publishes eight types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 printed pages or less.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 printed pages or less.
- 3) **Case Reports:** A case report is for introducing a rare example or medical case without precedent, not for verifying a hypothesis. The manuscript being submitted must consist of actual examples (usually from one to two or more) of various issues or phenomena from physical activities, sports, etc. Such issues or phenomena should come from the area of physical fitness and sports medicine, or therapeutic/instructional topics, etc. These articles should be 4 printed pages or less. A case report is a brief report categorized under *Case Reports* and should be organized as follows: "Abstract", "Introduction", "Case Report", "Discussion", "References".
- 4) **Study Protocol:** A study protocol is for introducing a method of verifying various issues or phenomena from physical activities, sports, etc that are from the area of physical fitness, health science, and sports medicine. The study must be in the planning stage or in progress. These articles should be 10 printed pages or less. For

reporting a protocol of a randomized controlled trial, it must conform to the SPIRIT Statement (Standard Protocol Items for Randomized Trials) (<http://www.spirit-statement.org/>).

- 5) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 printed pages or less.
- 6) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors' own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 printed pages or less.
- 7) **Letters to the Editor:** Constructive comments and questions on regular articles, reviews, and other manuscripts published in this journal will be sent to the editorial board for consideration. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. Responses from the authors, together with the names of authors and names of those submitting questions or comments, will be published. Instead of using the J-STAGE online manuscript submission system, letters to the editor should be submitted to the following email address as an attached file. (hj-tairyoku@turui.co.jp)
- 8) **Proceedings:** Proceedings provide short summaries of in-progress or completed primary studies that have been presented at the General Sessions of the Annual Meeting of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, but have not yet been fully peer-reviewed for publication as complete articles. Proceedings (up to 1,800 characters) will be published in Number 6 of the journal.

2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.
- 2) The manuscripts in the invited Reviews and Short Reviews will be reviewed by the Editorial Board members.
- 3) Authors should submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.
- 4) Proceedings have not yet been fully peer-reviewed for publication as other articles.

3. SUBMISSION GUIDELINES

- 1) The manuscript must be submitted from "J-STAGE online submission and review system".
<http://www.editorialmanager.com/jpfsm/>
Letters to the Editor: Instead of using the J-STAGE online manuscript submission system, letters to the editor should be submitted to the following email address as an attached file. (hj-tairyoku@turui.co.jp)
- 2) Proceedings must be submitted through the Annual Meeting website by the submission deadline. Proceedings submission guidelines will be available on the website.

4. CONTACT US

Editorial office of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine
Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai, Oyodogawa, Tsuruoka-shi, Yamagata-ken 997-0854, Japan
E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp

5. MANUSCRIPT PREPARATION

1) Cover Letter

The "Required Submission Form" should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author's name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English



speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author's name and address should be written in Japanese as well as English.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

2) Manuscript

Authors should use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout.

(1) Title page The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). The corresponding author's e-mail address should be included in the title page. An asterisk(*) should be added to the right of the corresponding author's name.

(2) Abstract and Keywords Page 2 should contain a abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the title, affiliation(s), author(s) names and abstract in Japanese, if a manuscript is written by Japanese authors.

(3) Main text The text (“Introduction”, “Materials and Methods”, “Results” and “Discussion”. “Results” and “Discussion” may also be combined as “Results and Discussion”), acknowledgments, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, authors will require to formally submit their paper in electronic format.

6. MANUSCRIPT FORM

1) Affiliations When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript *1, 2, 3...* placed after each author's name and before each affiliation.

Examples for describing affiliations and mailing addresses:

¹ *Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan*

² *Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan*

³ *Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan*

⁴ *Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan*

2) Abbreviations Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Authors should limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD₅₀, FAD, FMN, GMP, P450, *etc.*

3) Units The following units should be used: length (m, cm, mm, μm, nm), mass (kg, g, mg, μg, ng, pg, mol, mmol, μmol, nmol), volume (l, ml, μl), time (s, min, h, d), temperature (°C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml, μg/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

4) Nomenclature The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

5) Tables Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 page numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend *etc.* under the table.

6) Figures Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 page and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions etc. should be given on a separate page, under the heading “Figure Legend”.

Drawings prepared with the aid of software packages are acceptable as long as they are high-quality print-out ready. Drawings prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should be marked with the first author’s name and number in the lower right corner of each sheet.

The appropriate location of each table or table embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

7) References References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in italic) in order of appearance and listed at the end of the text. Indication of doi (digital object identifier) is encouraged.

Examples of references are as follows:

For references with only one author:

Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111. doi: 10.1161/01.RES.85.11.1101.

Two authors:

Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247. doi: 10.3177/jnsv.52.233.

Up to twenty authors:

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. 2008. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 - and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400. doi:10.1254/jphs.08097FP.

More than twenty authors, list the twenty followed by et al.:

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. et al. 2012. Some aspects of heat stress on the plasticity of skeletal muscle cells. *J Phys Fitness Sports Med* 1: 197-204. doi: 10.7600/jpfs.1.197.

Citation from a book:

Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagasaki M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.

Citation from a paper in Japanese:

Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (in Japanese). doi: 10.7600/jspfs.60.279.

If more than two references with the same year and author(s) are cited, use lowercase letters after the year (Tanaka et al. 2015a, 2015b). Lowercase letters should be inserted in same-year references in the reference list.

7. ETHICS / Conflicts of Interest (COI)

1) For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) and/or Ethical Guidelines for Medical and



Health Research Involving Human Subjects (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000080278.pdf>), while experiments dealing with the human genome should be conducted according to the Japanese Government's "Ethical Guidelines for Human Genome/ Gene Analysis Research" (http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate Institutional Ethics Committee (IEC) will be accepted for publication. "Materials and methods" sections on research using human subjects or samples must include ethics statements that specify: the study was carried out in accordance with the appropriate guidelines, and the name of the approving institutional review board or equivalent committee(s) with the approval number.

- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. "Material and methods" sections of manuscripts reporting results of animal research must include required ethics statements that specify: the study was conducted according to the appropriate guidelines, the full name of the institutional Animal Care and Use Committee or equivalent ethics committee that approved the work, and the associated permit number(s).
- 3) When submitting reviews, original articles, and articles equivalent to these, authors should declare a conflict of interests (COI) in accordance with the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine guidelines as shown in the following link: (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm). In the event the guidelines are partially applicable, (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm), the relevant portion(s) should be described in the "Declaration of Conflict of Interest by Self-report" (Attached Form 1) and submitted to the Editorial Board.

Furthermore, authors should declare their COI status at the end of the article as follows,

- (1) Name(s) of the company of authors (including the position and the department)
- (2) All financial support from the business that the authors work for (if the submitted research is financially supported by a business)
- (3) Description of funder's role in the study design, collection, analysis, and interpretation of data, writing of the paper, and/or decision to submit for publication
- (4) Manpower supply from the business
- (5) Any other COI

Examples as follows:

1. The authors have read the journal's policy and have the following conflicts: AA, BB, CC, DD, and EE are employees of XXX Corporation, who supported a given study, in part. However, the sponsor had no role in the study design, data collection and analysis, decision to publish, or preparation of the manuscript. There are no patents, products in development or marketed products to declare. The authors have declared that no competing interests exist.
2. AA, BB, CC, and DD are employees of YYY Corporation. EE has not received any payments for a given study from YYY Corporation. The authors have declared that no competing interests exist. This does not alter the authors' adherence to Journal of Physical Fitness and Sports Medicine policies.
3. In the event the guidelines are not applicable to the given conflict of interests condition, this should be declared by writing "Conflict of Interests: The author(s) declare that there is no conflict of interests regarding the publication of this article" at the end of the article.

8. Author Contributions

The contributions of all authors must be described at submission based on the International Committee of Medical Journal of Editors (ICMJE) recommendations (<http://www.icmje.org/recommendations/browse/roles-and-responsibilities/defining-the-role-of-authors-and-contributors.html#two>) as follows:

- 1) Substantial contribution to the conception or design of the work, or the acquisition, analysis, or interpretation of data for the work.
- 2) Drafting the work or critically revising it for important intellectual content.
- 3) Final approval of the version to be published.
- 4) Agreement to be accountable for all aspects of the work in ensuring that questions related to the accuracy or integrity of any part of the work are appropriately investigated and resolved.

At the end of the article, the authors must describe their contributions concisely and use initials to indicate author identity. It is expected that all authors will have reviewed, discussed, and agreed to their individual contributions ahead of time. Contributions will be published with the final article, and they should accurately reflect contributions to the work.

The ICMJE recommends that contributors who meet fewer than all 4 of the above criteria for authorship should not be listed as authors, but they can be acknowledged.

Following are some examples.

Example 1: AA, BB and CC conceptualized the study design and protocol, and determined the study institutions. DD collected and assembled the data. EE carried out the analysis and interpretation of data. AA drafted the manuscript. All authors have critically reviewed, revised and approved the manuscript.

Example 2: Experiment conception and design: AA and BB. Experiment implementation: CC. Data analysis: DD and EE. Paper composition: AA. Analyzing and writing advisory: BB and CC. All authors approved the final version of the manuscript.

Example 3: Conceived and designed the study: AA. Performed the study: BB, CC, DD. Analyzed the data: FF and EE. Interpreted the data: AA and BB. Wrote the paper: AA. All authors approved the final version of the manuscript.

Example 4: AA analyzed and interpreted the patient data regarding hematological disease and transplants. BB performed the histological examination of the kidney, and was a major contributor in writing the manuscript. All authors read and approved the final manuscript.

9. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.



10. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Regular Article	5,000	20,000
Short Communication	5,000	20,000
Case Report	5,000	20,000
Study Protocol	5,000	20,000
Review (submitted)	5,000	20,000
Short Review (submitted)	5,000	20,000
Letters to the Editor	0	0
Correction	10,000	20,000

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

11. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

Categories covered

- | | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 Nervous and sensory system | 2 Motor control | 3 Musculoskeletal system |
| 4 Respiratory and circulatory system | 5 Hematology and immunology | 6 Humor and endocrinology |
| 7 Metabolism | 8 Nutrition and digestion | 9 Morphology and body composition |
| 10 Aging and gender difference | 11 Environmental physiology | 12 Exercise training |
| 13 Lifestyle and health | 14 Biomechanics | 15 Genes and gene regulation |
| 16 Sports medicine and diseases | 17 Rehabilitation and exercise therapy | 18 Drug and doping |
| 19 Sports psychology | 20 Miscellaneous | |

ご 案 内

〈各種手続方法〉

	連 絡 先	住 所	電 話 番 号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 一般社団法人日本体力医学会事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル4階 E-mail:jspfsm@asas-mail.jp	TEL 03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦が必要 入会はHPより登録 http://www.jspfsm.umin.ne.jp/information/index.htm
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 13,200円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jspfsm/	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail:hj-tairyoku@turuin.co.jp	0235(22)3120 TEL, FAX 共通	和文誌「体力科学」 投稿規定はHP参照のこと
英文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jpfsm/	「JPFSM」編集事務局	〃	〃	英文誌「JPFSM」 投稿規定はHP参照のこと

〈地方会事務局〉

【北海道地方会】

地方会代表：遠山 晴一 事務局長：寒川 美奈
事務局所在地（〒060-0812 北海道札幌市北区12条西5丁目 北海道大学大学院保健科学研究院機能回復学分野）
TEL&FAX：011-706-3329
E-mail：jspfsm-hokkaido@hs.hokudai.ac.jp

【東北地方会】

地方会代表：永富 良一 事務局長：門間 陽樹
事務局所在地（〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号 東北大学大学院医学系研究科運動学分野）
TEL&FAX：022-717-8166
E-mail：h-momma@med.tohoku.ac.jp

【北陸地方会】

地方会代表：橋爪 和夫 事務局長：田村 暢熙
事務局所在地（〒920-0265 石川県河北郡内灘町大学2-224）
TEL：076-286-1078
E-mail：tamura@kanazawa-med.ac.jp

【関東地方会】

地方会代表：竹森 重 事務局長：山内 秀樹
事務局所在地（〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 東京慈恵会医科大学・分子生理学講座・体力医学研究室（担当 田口美香））
TEL：03-5400-1200（内線2216），FAX：03-3431-3827
E-mail：mol-phys@jikei.ac.jp

【東海地方会】

地方会代表：石田 浩司 事務局長：水野 貴正
事務局所在地（〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町E5-2(130) 名古屋大学総合保健体育科学センター）
TEL：052-789-3959，FAX：052-789-3957
E-mail：mizuno@htc.nagoya-u.ac.jp

【近畿地方会】

地方会代表：吉川 貴仁 事務局長：吉川 貴仁
※代表と事務局長は兼務。

事務局所在地（〒545-8585 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-4-3 大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学内）
TEL：06-6645-3790，FAX：06-6646-6067
E-mail：wsports@med.osaka-cu.ac.jp

【中国・四国地方会】

地方会代表：小野寺 昇 事務局長：矢野 博己
事務局所在地（〒701-0193 岡山県倉敷市松島288 川崎医療福祉大学）
TEL：086-462-1111，FAX：086-464-1109
E-mail：jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp

【北九州地方会】

地方会代表：山津 幸司 事務局長：西田 裕一郎
事務局所在地（〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1 佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野）
TEL：0952-34-2287
E-mail：ynishida@cc.saga-u.ac.jp

【南九州地方会】

地方会代表：田巻 弘之 事務局長：與谷 謙吾
事務局所在地（〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学体育学部スポーツ生命科学系）
TEL：0994-46-4934
E-mail：yotani@nifs-k.ac.jp

〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports
Medicine, 319 Longwood Avenue,
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA
Tel : +617 355 6970 Fax: +617 730 0694
Email: michelilyle@aol.com
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

—— JPFSSM や体力科学に掲載された論文のキーワード検索について —— (J-STAGE 検索方法)

JPFSSM や体力科学に掲載された論文から、キーワードで特定の論文を探したい場合は、J-STAGE でキーワード検索ができます。検索方法は以下となりますので、ご活用ください。

JPFSSM から検索する場合は（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpfsm/>）より

体力科学から検索する場合は（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jspfsm/-char/ja/>）より進んでください。

体力科学の検索方法

- 1 J-STAGE「体力科学」（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jspfsm/-char/ja/>）のサイトにいき、「巻号一覧」をクリックします。
検索ボタンの下にある「詳細検索」をクリックすると、詳細検索画面に入ります。
指定した条件に基づいて詳細検索を行います。

- 2 「指定検索」のプルダウンメニューから「キーワード」を選びます。
(指定検索には、キーワードの他に、論文タイトル、抄録、全文、引用文献等があります。)
指定検索の右横の「検索する語を入力してください」の欄に、検索したいキーワードを入力します。
検索する語が1つの場合は、このページの一番下に「検索」ボタンがありますので、クリックしてください。

検索

すべての検索条件のリセット

指定検索

③ AND → OR ⑤ クリック

キーワード	① 選択	肥満	② 入力	OR	⑤ クリック
⑥ 同様	キーワード	食事療法		OR	削除
	キーワード	運動療法		OR	削除

検索条件を翻訳する（翻訳対象は「論文タイトル」、「抄録」、「全文」、「キーワード」、「引用文献」のみです）

指定しない
 日本語から英語へ
 英語から日本語へ

④ クリック

3 複数の検索をする場合、1つでも該当するキーワードを含む論文を検索するならば、下記の手順で行います。

キーワード入力枠の右にある「AND」をクリックして「OR」にしてください。
（「AND」はすべての条件を満たすものだけが検索されます。）

<例>

「肥満」あるいは「食事療法」あるいは「運動療法」を入力します。

「指定検索」のプルダウンメニュー下にある、「・指定しない」→「・日本語から英語」へクリックします。

（日本語入力で検索は出来ませんが、体力科学のキーワード掲載は英語表記の為、日本語から英語へのボタンをクリックします。）

※ JPFISM の場合は、キーワードは Obesity, diet therapy, exercise therapy など「英語」で入力してください。（「・指定しない」にします。）

1つ目の検索条件とした行の右に「追加」ボタンがありますので、その「追加」ボタンをクリックしてください。（「追加」ボタンは1つ目検索条件の右横にありますので、2つ目以上の検索条件を入力する場合には、この1つ目の検索条件の右横の「追加」ボタンをクリックしてください。）

すると、2つ目の検索条件の設定ができるようになります。

ここで、2つ目のキーワードを入力します。その右横は「AND」を「OR」に変えます。3つ目以降も同様です。

これで、条件設定終了です。

このページの一番下に、「検索」ボタンがありますので、クリックしてください。

検索	すべての検索条件のリセット
----	---------------

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2019年9月）議事録

日 時：2019年9月18日(水) 午後5時30分～6時30分

場 所：つくば国際会議場 4F 小会議室406

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭、永富良一各副理事長、

碓井外幸常務理事、宇高 潤、勝村俊仁、

川原 貴、栗原 敏、後藤勝正、坂本静男、

下光輝一、須田和裕、須永美歌子、武政 徹、

竹森 重、田中喜代次、田畑 泉、成田和穂、

前田清司、宮川俊平、和気秀文各理事、

清田 寛、小林康孝各監事、

徳田修司（第75回大会長）、

加藤 公（第76回大会長）

欠席者：大野 誠、小野寺昇、浜岡隆文各理事、

井上 茂、定本朋子各監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時まで訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 日本体力医学会健康科学アドバイザー新規申請者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザー®の新規申請者8名の氏名リストが提示され、承認された。

3. 日本体力医学会名誉健康科学アドバイザー称号贈呈者候補者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会名誉健康科学アドバイザーの称号贈呈者3名の氏名リストが提示され、承認された。

4. 「肥満研究」25巻3号への原稿執筆者について（鈴木理事長）

日本肥満学会事務局から神戸宣言2018をテーマにした原稿の執筆依頼があったと報告があり、鈴木理事長が執筆することが承認された。

5. 学会大会の「演題抄録登録システム」継続利用について（後藤編集副委員長）

長年、各学会大会事務局で「引き継ぎ」で利用してきた、UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）の「演題抄録登録システム」が昨年サービス停止のお知らせがあったが、多くの要望があり有償化での継続利用が可能となったことが報告された。有償化に伴い、第74回日本体力医学会大会においては、これまでとは別のシステムでの演題登録となり、システムが替わることによる、入力規則やシステムに依存したデータ処理による不具合が発生したと報告された。大会ごとに「演題抄録登録システム」が変更となると今後の英文抄録の掲載に支障をきたすことが考えられると報告があり、本会の演題数の場合は今後毎年8万5千円（100演題以上～1000演題未満）が継続して発生することになるが、JPFISM No.6に掲載される英文抄録登録デー

タの適正管理のためにUMINの登録システムを利用したいと提案があり、承認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（武政委員長）

オンライン名簿の利用者が少ないと報告があり、委員会からオンライン名簿を廃止にはどうかと提案があり、理事会で承認された。また、不在者投票の仕組みや賛助会員のバナー広告について検討している旨、報告された。

2) 編集委員会（田中委員長）

資料に基づき、「JPFISM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況が報告された。

3) 学術委員会（碓井委員長）

スポーツ医学研修会の参加者を増やす対策として、臨床系の学会の単位申請を検討していること、また、日本体力医学会健康科学アドバイザーの証書をカード形式にするのどうかを検討中である、と報告された。

4) 渉外委員会（永富委員長）

来期の委員会構成は、半分ほど委員を入れ替えて若手を登用していくこと、また、第74回大会ではスポーツ協会の単位申請が通ったので、来年は広く周知して参加者数を増やしていきたい、と報告された。

5) 全国地方会実行委員会（竹森委員長）

委員会において、各地方会の活動状況の報告があったこと、財政基盤が整えば予算を以前の額に戻してほしいという意見があったことが報告された。

2. 第75回（鹿児島）大会の進捗状況

（徳田第75回大会長）

配布資料に基づき、大会の準備状況等について報告された。

会 場：鹿児島大学郡元キャンパス

会 期：2020年9月24日(木)～26日(土)

テーマ：チェストいけ！日本体力医学会

－健康長寿を支える体力医学の未来－

3. 第76回（三重）大会の進捗状況

（加藤第76回大会長）

配布資料に基づき、大会の準備状況等について報告された。

会 場：三重県総合文化センター

会 期：2021年9月17日(金)～19日(日)

4. その他

1) 田中第74回大会長よりご挨拶がなされた。

2) 体力医学会役員各位に、“医師・コメディカルのためのメディカルフィットネス”（日本体力医学会編著、2019年9月13日初版発行、社会保険研究所発行）が献本され、最低2名以上に紹介してほしいと依頼された。

一般社団法人日本体力医学会 令和元年度評議員会 議事録

日 時：2019年9月20日(金)

午後1時00分～午後2時00分

場 所：つくば国際会議場 2F 大ホール (A会場)

議 長：下光輝一

出席理事監事：鈴木政登, 西平賀昭, 永富良一,
碓井外幸, 宇高 潤, 小野寺 昇,
勝村俊仁, 川原 貴, 後藤勝正,
坂本静男, 下光輝一, 須田和裕,
須永美歌子, 武政 徹, 竹森 重,
田中喜代次, 田畑 泉, 成田和穂,
前田清司, 宮川俊平, 和気秀文各理事,
井上 茂, 清田 寛, 小林康孝各監事

議事録作成者：下光輝一

議事に先立ち、下記の項目について報告・承認がなされた。

- ・田中大会長より、挨拶と第74回大会概要の報告が行われた。
- ・評議員会は評議員総数537名の内、委任状出席254名、12時55分現在の出席者40名、評議員総数の過半数269名を超えており、成立することが確認された。

【審議事項】

1. 令和元年度庶務報告に関する件 (武政総務委員長)

1) 会員総数4,133名 (2019年7月31日現在)

名 誉 会 員	30名
正 会 員	4,073名
シニア会員	19名
外 国 会 員	11名
賛 助 会 員	5団体

公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団, 鶴岡印刷株式会社, 公益財団法人明治安田厚生事業団, 大塚製薬株式会社, 大正製薬株式会社

2) 役員数

評 議 員	537名
(内) 理事	24名
監 事	4名

3) 購読数

体力科学	122団体
JPFMSM	8団体

4) 年度内入退会状況

新入会員	323名
退 会 者	426名
(内) 申 込 者	189名
自然退会	237名

2. 令和元年度事業報告に関する件 (各委員長)

以下のとおり令和元年度事業報告についての報告がなされた。

1) 事業期間

2018年8月1日～2019年7月31日

2) 委員会活動

- ・総務委員会

◎本学会の庶務に関する事項

日本体力医学会シニア会員の新設、それに伴う定款／細則の改訂

理事候補, 評議員会長候補及び監事候補の選出等に関わる定款／細則の改訂

役員を選出に関する規程の改訂

◎学会大会長に関する事項

第76回大会 (三重) の大会長候補者の決定

加藤 公 (鈴鹿回生病院病院長, 三重県体育協会副会長)

・編集委員会

◎学会誌出版 (学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開)

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」

Vol. 7のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 8のNo. 1, No. 2, No. 3

「体力科学」

Vol. 67のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 68のNo. 1, No. 2, No. 3

※電子ジャーナルの公開は、J-STAGE『印刷前公開』での実施

◎JPFMSM掲載論文リストのメール配信

◎投稿規定追記 (2018.9.8)

「JPFMSM」

Correctionの掲載料を追記

Ethics/Conflicts Interest (COI) の記載例を追記

「体力科学」

地方会抄録の掲載料を追記

倫理・利益相反の記載例を追記

◎JPFMSMオリジナルWebsiteの運用, Online Firstの掲載

◎ジャーナルの活性化対策の検討

「特集号」の掲載・企画

注目されている hot topic に焦点を当てた「特集号」を掲載

「JPFMSM」 Vol. 7, No. 4

第1回特集：Aging and Skeletal Muscle Atrophy 4編掲載

「体力科学」 Vol. 67, No. 5

第2回特集：エネルギー代謝 6編掲載

「JPFMSM」 Vol. 8, No. 5

第2回特集：Exercise in hypertension

6編掲載予定

「体力科学」 Vol. 68, No. 5

第3回特集：介護予防を考える 6編掲載予定

◎プライバシーポリシーを公開

◎海外Editor選定の準備

◎第9回アジア・オセアニア生理学会連合2019年大会 (The 9th Federation of Asian and Oceanian Physiological Societies Congress: FAOPS2019) でのJPFMSMおよび体力科学の展示

・学術委員会

◎スポーツ医学研修会委員会

令和元年度 (第30回) スポーツ医学研修会

- 1) 基礎コース (令和元年6月29～6月30日, 於日本体育大学)
参加者: 22名 (内, 欠席者0名)
- ※ 2) 応用コース (令和元年8月2～3日, 於日本体育大学)
参加者: 18名 (内, 欠席者0名)
- ※ 修了試験 (受験者: 15名 令和元年8月4日, 於日本体育大学)
- ◎ 称号委員会
「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」
申請時に審査 (委員会) → 承認 (理事会) → 報告 (総会)
- ◎ プロジェクト研究委員会
平成28年度に採択されたプロジェクト研究が終了した
- ◎ 学会賞選考委員会
第32回日本体力医学会賞候補の選考を行った
- ◎ ガイドライン検討委員会
渉外委員会とともに他学会との協力の下に, 生活習慣の改善における身体活動・運動に関するガイドライン作成を進めている
また, 本学会の会員の意見を広く取り入れながら, 運動療法ガイドライン作成に向けた活動を行っている
- ・ 財務委員会
令和2年度予算案の作成と予算の適切な執行の確認
- ・ 評議員選考委員会
評議員候補者の研究業績の中で査読付きと査読なしの学術論文を明瞭に分類できるよう申請書の研究業績欄の書式を変更した
評議員候補者申請書をもとに令和元年度の評議員選考を行い, 理事会および評議員会兼社員総会に諮った
- ・ 渉外委員会
- ◎ 国際交流事業
- 1) アジアオセアニア生理学会学術集会
FAOPS2019 2019.3.28-3.31
JSPFSM Special Talk
小平奈緒 (相澤病院)・結城匡啓 (信州大学)
- 2) ECSS
- ① 2019 Prague 2019.7.3-6
ECSS-JSPFSM Exchange Symposium
“Lactate/Pyruvate Metabolism in Skeletal Muscle: Energy Substrates and Beyond”
シンポジスト: 北岡 祐 (神奈川大学), 星野太佑 (電気通信大学), 橋本健志 (立命館大学)
- ② 2020 Seville 2020.7.1-3
ECSS-JSPFSM Exchange Symposium
“Muscle Relaxation in Sports”
シンポジスト: 加藤考基 (南山大学), 大高千明 (奈良女子大学), Vogt, Tobias (ケルン体育大学: 座長)
- 3) 第74回日本体力医学会大会 (つくば) における国際交流事業
ECSS 2018 Young Investigators Award
- Winnersの招聘
- 4) 国際学術交流奨励賞 受賞者16名
- 5) 2020横浜スポーツ学術会議 (2020.9.8-12) のシンポジウム企画
(http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html)
- 6) 他の国際学会との連携
- ① FIMS (国際スポーツ医学会) 2018.9.12-14 Rio de Janeiro
- ② AFSM (アジアスポーツ医学会)
- ③ IBRO (International Brain Research Organization) 2019
Satellite for International Sport Neuroscience Conference
2019.9.18-19 (<http://ibro2019.org/index.php?gt=pro/pro07>)
- ④ ACSS (Asian College of Sports Science 仮称) 準備委員会への参加依頼 (2019.3月)
設立時参加国 (予定): China, Singapore, Malaysia, Hong Kong, Chinese Taipei, Thailand, Vietnam and Japan
- ◎ 国内関連学術団体との交流・連携
- 1) 脳心血管病予防に関する包括的管理チャート2019の改訂
- 2) 国内学会との連携
- ① 第97回日本生理学会大会 (2020) 他学会連携シンポジウム
- ② 日本体力医学会/日本肥満学会/日本サルコペニア・フレイル学会合同シンポジウム (第74回日本体力医学会つくば大会)
- 3) 日本スポーツ協会: 日本体力医学会における講演・シンポジウム参加による日本スポーツ協会認定スポーツドクターの単位認定 (第74回大会から)
- ◎ 日本体力医学会の活動の国内外に対する見える化
- 1) 広報委員会と連携
- ・ 倫理委員会
- ◎ 「診療放射線技師法違反容疑」に関する調査委員会の設置, 調査活動および報告書の作成
- ◎ 「会員の懲戒に関する規程」の制定
- ・ 広報委員会
学会ホームページの管理, 運営およびコンテンツの検討
- ・ 男女共同参画推進委員会
男女共同参画に関する情報収集に努めた
- ・ 利益相反委員会
- ◎ 利益相反委員会委員名簿
委員長: 永富良一
委員: 片山敬章, 家光素行
- ◎ 学会誌 体力科学およびJPFMSMの投稿規定の改訂 (2018年9月)
利益相反に関する項の改訂 (体力科学 VI-C, JPFMSM7-3)
- ・ 全国地方会実行委員会
地方会大会における非会員非招聘の発表抄録の体力科学誌への抄録掲載費が決まったことから, この掲載費を含めた学会本部との資金の流れを整理

した

また新規の地方会からの運営についての相談に応じた

3) 第73回日本体力医学会大会の実施

大会長：戎 利光（福井工業大学スポーツ健康科学部学部長・主任教授）

会 期：2018年9月7日(金)～9日(日)

会 場：アオッサ・ハピリン

4) 令和2年度日本体力医学会健康科学アドバイザー

®称号認定者

・新規 8名（第29回研修会）

五十島輝美 角田 貢 鮫島久美

柴田景子 中谷英章 本田達朗

三宅亮輔 山口和輝

・新規 8名（第30回研修会）

天方さゆみ 石井 隆 内田圭子

大城孝幸 菊池将史 十河直太

藤田直人 鷲見 暁

・継続 19名

今西昭雄 高木 聖 矢野史也

内田弘美 相馬優樹 高橋政行

角田憲治 藤原陽子 吉居尚美

榎本紀行 大崎 栄 高橋 章

阿部恭子 荻澤佳奈 齋藤史子

馬場美佳子 正村謙二 真家克夫

三浦恭子

・終身 5名

相澤 徹 大下聖治 北園忠美

橋本 眞 廣藤千代子

5) 令和2年度日本体力医学会名誉健康科学アドバイザー称号贈呈者

後藤勝正 須田和裕 成田和穂

3. 令和元年度会計（決算）に関する件

（宮川財務委員長）

令和元年度決算について、当年度収支としては2,690,104円の黒字となり、次年度繰越金は73,124,499円になったとの報告があった。本決算については公認会計士によるチェックが行われている事が併せて報告があり、引き続き小林監事より監査報告が行われた。

4. 令和2年度事業計画に関する件（各委員長）

以下のとおり令和2年度事業計画についての報告がなされた。

1) 事業期間

2019年8月1日～2020年7月31日

2) 委員会活動

・総務委員会

第77回栃木大会の大会長の推薦

学会総務に関わる規則の見直し

・編集委員会

1) ジャーナルの発行、公開

JPFMSM：Vol. 8-4～9-3（合計6号）

体力科学：Vol. 68-4～69-3（合計6号）

2) 掲載論文数を増やす

[JPFMSM]：特集を掲載する。

3) 学会誌投稿におけるCOIマネジメントの改訂

4) 「ACSM運動処方指針（原著第10版）」の翻訳本の出版

5) 学術刊行物「メディカルフィットネス」（仮称）の出版

・学術委員会

1) スポーツ医学研修会委員会

第30回スポーツ医学研修会（於日体大）の実施（学会HP・体力科学に案内を掲載）

2) プロジェクト研究委員会

研究成果の第74回日本体力医学会大会（茨城）での報告

3) 称号委員会

日本体力医学会健康科学アドバイザー®の審査をスポーツ医学研修会後の申請により実施

4) ガイドライン検討委員会

「少子高齢化」が進行し大きな社会問題となっているわが国における、「健康寿命の延伸」を目指した活動なども視野に入れたガイドラインの作成などを、他の学術団体との協力も含めて進めてゆく

また、東京オリンピック2020を視野に入れた、競技スポーツにおける安全対策についても検討してゆく

・財務委員会

令和3年度予算案の作成

・評議員選考委員会

ホームページと機関誌に従前通り評議員推薦のための案内を入れ、平成28年度に改定された評議員申請要項に対する理解をはかり、多くの会員に評議員推薦を促し、評議員、とりわけ女性評議員数の増加をはかる

・渉外委員会

1) 国際交流事業

(ア) ECSS-JSPFSM Exchange Symposium

①2020 Seville 2020.7.1-3

ECSS-JSPFSM Exchange Symposium

“Muscle Relaxation in Sports”

シンポジスト：加藤考基（南山大学）、大高千明（奈良女子大学）、Vogt, Tobias（ケルン体育大学：座長）

（会員のみ日本からSevilleへの航空券負担、滞在費・登録費ECSS負担）

②2021 Glasgow 提案受付 2019.10.1-11.15

(イ) 第75回日本体力医学会大会（鹿児島）

2020.9.24-26における国際交流事業：ECSS 2019 Young Investigators Award Winnersの招聘（滞在費のみ負担）

(ウ) ECSS 2020 Seville 2020.7.1-3 Young Investigators Award Winnersの日本体力医学会大会（三重大会）への招聘（滞在費のみ負担）

(エ) 国際学術交流奨励賞（財務状況によっては見送り：2020横浜スポーツ学術会議におけるシンポジスト招聘旅費支出のため）（予算80万円：16名×5万円）

(オ) 2020横浜スポーツ学術会議（2020.9.8-12）

- のシンポジウム企画
(http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html)
(シンポジスト招聘旅費負担)
- (カ) 他の国際学会との連携 (委員派遣費負担の可能性あり)
- ①AFSM (アジアスポーツ医学会) :
2019.12.13-15 Ryad, Saudi Arabia
- ②FIMS (国際スポーツ医学会) : 2020.9.24-27 Athens, Greece (本学会と会期重複)
- ③IOC World Conference on Prevention of Injury and Illness 2020 : 2020.3.12-14 Monaco (<http://www.ioc-preventionconference.org>).
Application deadline : 2019.9.13
- ④ACSS (Asian College of Sports Science 仮称) 準備委員会への参加依頼 (2019.3月) (準備委員会2019.10.4-7 旅費・滞在費 準備委員会負担)
設立時参加国 (予定) : China, Singapore, Malaysia, Hong Kong, Chinese Taipei, Thailand, Vietnam and Japan
- 2) 国内関連学術団体との交流・連携
- (ア) 脳心血管病予防に関する包括的管理合同会議 (広報資料印刷費負担)
- (イ) 国内学会との連携 (シンポジスト旅費負担)
- ①第97回日本生理学会大会 (2020) 他学会連携シンポジウム
- (ウ) 日本スポーツ協会 : 日本体力医学会における講演・シンポジウム参加による日本スポーツ協会認定スポーツドクターの単位認定
- 3) 日本体力医学会の活動の国内外に対する見える化
- (ア) 広報委員会と連携
- ・倫理委員会
- 1) 会員の懲罰に関する規程の制定
- 2) 研究倫理審査事業の実施
- 3) 会員の倫理意識向上の啓発
- ・広報委員会
- 1) ホームページの充実
- 2) その他, 本学会に関わる事項の広報活動
- ・男女共同参画推進委員会
男女共同参画に関する情報収集に努める
- ・利益相反委員会
国内外の学術および学会活動あるいは論文投稿に関する利益相反およびそのマネジメントに関わる最新の動向に関する情報収集と対応
- ・全国地方会実行委員会
- 1) 学会本部・鶴岡印刷と各地方会との間のやり取りを簡潔にする取り決めについて, 運用上の問題点, 改善すべき点を検討する
- 2) 新規に立ち上がった地方会の運営上のアドバイスを求めに応じて提供する
- 3) 第74回日本体力医学会大会の実施
大会長 : 田中喜代次 (筑波大学名誉教授)
会 期 : 2019年9月19日(木)~21日(土)
会 場 : つくば国際会議場
- 4) 第75回日本体力医学会大会の準備
大会長 : 徳田修司 (鹿児島大学名誉教授・鹿屋体育大学特任教授)
会 期 : 2020年9月24日(木)~26日(土)
会 場 : 鹿児島大学 (共通教育センター, 稲盛会館)
5. 令和2年度会計報告 (予算) に関する件 (宮川財務委員長)
令和2年度予算案が提示され, 令和2年度の収入合計98,138,800円, 支出合計99,184,800円であると説明された。ただ, 9月18日に行われた理事会において, オンライン名簿の廃止が理事会で承認されたため, 230万円の費用が削減されたので, 黒字見込みである旨, 報告された。
6. 名誉会員推薦に関する件 (鈴木理事長)
名誉会員選考委員会 (総務委員会兼務) にて名誉会員推薦内規に基づき以下の3名の候補者が推薦された旨の報告がなされた。
荒尾 孝, 菅原正志, 本間生夫 (敬称略)
7. 評議員推薦に関する件 (西平評議員選考委員会業務執行役)
令和元年度評議員推薦に関しては13名の推薦があり, 評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い, 1名は研究業績が不足, それ以外の12名について評議員資格を有するとの報告に基づき, 審議の結果, 承認された。
新評議員 (12名)
- | | | |
|-------|--------|--------|
| 窪田 敦之 | 河村 剛光 | 坂本 彰宏 |
| 相馬 優樹 | 高橋 祐美子 | 角田 憲治 |
| 中原 雄一 | 牧迫 飛雄馬 | 松尾 絵梨子 |
| 森村 和浩 | 柳田 信也 | 和坂 俊昭 |
8. 役員改選に関する件 (武政総務委員長)
以下のとおり令和元年度社員総会後の役員について, 選挙結果の報告がなされた。
新理事 (25名)
- | | | |
|--------|-------|--------|
| 赤間 高雄 | 井福 裕俊 | 碓井 外幸 |
| 太田 真 | 大野 誠 | 栗原 敏 |
| 小山 勝弘 | 後藤 勝正 | 下光 輝一 |
| 新開 省二 | 鈴木 政登 | 須田 和裕 |
| 武政 徹 | 竹森 重 | 田中 喜代次 |
| 中里 浩一 | 永富 良一 | 成田 和穂 |
| 西平 賀昭 | 浜岡 隆文 | 前田 清司 |
| 宮内 卓 | 宮川 俊平 | 和気 秀文 |
| 須永 美歌子 | | |
- 新監事 (4名)
- | | | |
|------|-------|-------|
| 井上 茂 | 小林 康孝 | 定本 朋子 |
| 清田 寛 | | |
9. 第76回日本体力医学会大会 (三重) 開催について (武政総務委員長)
理事会から第76回 (三重) 大会長候補として加藤公会員 (鈴鹿回生病院病院長) が推薦されたことが報告された。

10. その他

- ・鈴木理事長より、近年の体力医学会業務見直し・廃止等により、財政が安定化し1億近い留保財産があるので、今後、この資金を基に、高齢者の健康問題や生活習慣病の最上流にある肥満の問題等に特化したプロジェクトチームを新たに発足し、これらの事

項に関して本学会で既に発表された研究成果を中心に体系化し、会員は言うに及ばず社会還元する活動を学術委員会および編集委員会を中心に行う予定である旨、加えられた。

- ・加藤公第76回大会長より挨拶があった。

一般社団法人日本体力医学会 令和元年度社員総会 議事録

日 時：2019年9月20日(金)

午後1時00分～午後2時00分

場 所：つくば国際会議場 2F 大ホール (A会場)

議 長：下光輝一

出席理事監事：鈴木政登、西平賀昭、永富良一、
碓井外幸、宇高 潤、小野寺 昇、
勝村俊仁、川原 貴、後藤勝正、
坂本静男、下光輝一、須田和裕、
須永美歌子、武政 徹、竹森 重、
田中喜代次、田畑 泉、成田和穂、
前田清司、宮川俊平、和気秀文各理事、
井上 茂、清田 寛、小林康孝各監事

出席社員数：113名 (議決権個数113個)

議事録作成者：鈴木政登

議事に先立ち、田中大会長より、挨拶と第74回大会概要の報告がなされた。

【審議事項】

1. 令和元年度庶務報告に関する件 (武政総務委員長)

1) 会員総数4,133名 (2019年7月31日現在)

名 誉 会 員	30名
正 会 員	4,073名
シニア会員	19名
外 国 会 員	11名
賛 助 会 員	5団体

公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団、鶴岡印刷株式会社、公益財団法人明治安田厚生事業団、大塚製薬株式会社、大正製薬株式会社

2) 役員数

評 議 員	537名
(内) 理事	24名
監 事	4名

3) 購読数 130団体

体力科学	122団体
JPFMSM	8団体

4) 年度内入退会状況

新入会員	323名
退 会 者	426名
(内) 申 込 者	189名
自然退会	237名

2. 令和元年度事業報告に関する件 (各委員長)

以下のとおり令和元年度事業報告についての報告がなされ、承認された。

1) 事業期間

2018年8月1日～2019年7月31日

2) 委員会活動

・総務委員会

◎本学会の庶務に関する事項

日本体力医学会シニア会員の新生設、それに伴う定款／細則の改訂
理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等に関わる定款／細則の改訂
役員を選出に関する規程の改訂

◎学会大会長に関する事項

第76回大会 (三重) の大会長候補者の決定

加藤 公 (鈴鹿回生病院病院長, 三重県体育協会副会長)

・編集委員会

◎学会誌出版 (学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開)

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」

Vol. 7のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 8のNo. 1, No. 2, No. 3

「体力科学」

Vol. 67のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 68のNo. 1, No. 2, No. 3

※電子ジャーナルの公開は、J-STAGE『印刷前公開』での実施

◎JPFMSM掲載論文リストのメール配信

◎投稿規定追記 (2018.9.8)

「JPFMSM」

Correctionの掲載料を追記

Ethics/Conflicts Interest (COI) の記載例を追記
「体力科学」

地方会抄録の掲載料を追記

倫理・利益相反の記載例を追記

◎JPFMSMオリジナルWebsiteの運用, Online Firstの掲載

◎ジャーナルの活性化対策の検討

「特集号」の掲載・企画

注目されている hot topicに焦点を当てた「特集号」を掲載

「JPFMSM」 Vol. 7, No. 4

第1回特集: Aging and Skeletal Muscle Atrophy 4編掲載

「体力科学」 Vol. 67, No. 5

第2回特集: エネルギー代謝 6編掲載

- 「JPFMS」 Vol. 8, No. 5
第2回特集：Exercise in hypertension
6編掲載予定
「体力科学」 Vol. 68, No. 5
第3回特集：介護予防を考える 6編掲載予定
- ◎プライバシーポリシーを公開
 - ◎海外Editor選定の準備
 - ◎第9回アジア・オセアニア生理学会連合2019年大会 (The 9th Federation of Asian and Oceanian Physiological Societies Congress: FAOPS2019) でのJPFMSおよび体力科学の展示
 - ・学術委員会
 - ◎スポーツ医学研修会委員会
令和元年度(第30回)スポーツ医学研修会
1) 基礎コース(令和元年6月29～6月30日, 於日本体育大学)
参加者: 22名(内, 欠席者0名)
 - ※2) 応用コース(令和元年8月2～3日, 於日本体育大学)
参加者: 18名(内, 欠席者0名)
 - ※修了試験(受験者: 15名 令和元年8月4日, 於日本体育大学)
 - ◎称号委員会
「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」
申請時に審査(委員会)→承認(理事会)→報告(総会)
 - ◎プロジェクト研究委員会
平成28年度に採択されたプロジェクト研究が終了した
 - ◎学会賞選考委員会
第32回日本体力医学会賞候補の選考を行った
 - ◎ガイドライン検討委員会
渉外委員会とともに他学会との協力の下に, 生活習慣の改善における身体活動・運動に関するガイドライン作成を進めている
また, 本学会の会員の意見を広く取り入れながら, 運動療法ガイドライン作成に向けた活動を行っている
 - ・財務委員会
令和2年度予算案の作成と予算の適切な執行の確認
 - ・評議員選考委員会
評議員候補者の研究業績の中で査読付きと査読なしの学術論文を明瞭に分類できるように申請書の研究業績欄の書式を変更した
評議員候補者申請書をもとに令和元年度の評議員選考を行い, 理事会および評議員会兼社員総会に諮った
 - ・渉外委員会
 - ◎国際交流事業
 - 1) アジアオセアニア生理学会学術集会
FAOPS2019 2019.3.28-3.31
JSPFSM Special Talk
小平奈緒(相澤病院)・結城匡啓(信州大学)
 - 2) ECSS
 - ①2019 Prague 2019.7.3-6
ECSS-JSPFSM Exchange Symposium
 - ②2020 Seville 2020.7.1-3
ECSS-JSPFSM Exchange Symposium
“Muscle Relaxation in Sports”
シンポジスト: 加藤考基(南山大学), 大高千明(奈良女子大学), Vogt, Tobias(ケルン体育大学: 座長)
 - 3) 第74回日本体力医学会大会(つくば)における国際交流事業
ECSS 2018 Young Investigators Award Winnersの招聘
 - 4) 国際学術交流奨励賞 受賞者16名
 - 5) 2020横浜スポーツ学術会議(2020.9.8-12)のシンポジウム企画
(http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html)
 - 6) 他の国際学会との連携
 - ①FIMS(国際スポーツ医学会) 2018.9.12-14 Rio de Janeiro
 - ②AFSM(アジアスポーツ医学会)
 - ③IBRO(International Brain Research Organization) 2019
Satellite for International Sport Neuroscience Conference
2019.9.18-19 (<http://ibro2019.org/index.php?gt=pro/pro07>)
 - ④ACSS(Asian College of Sports Science 仮称) 準備委員会への参加依頼(2019.3月)
設立時参加国(予定): China, Singapore, Malaysia, Hong Kong, Chinese Taipei, Thailand, Vietnam and Japan
 - ◎国内関連学術団体との交流・連携
 - 1) 脳心血管病予防に関する包括的管理チャート2019の改訂
 - 2) 国内学会との連携
 - ①第97回日本生理学会大会(2020) 他学会連携シンポジウム
 - ②日本体力医学会/日本肥満学会/日本サルコペニア・フレイル学会合同シンポジウム(第74回日本体力医学会つくば大会)
 - 3) 日本スポーツ協会: 日本体力医学会における講演・シンポジウム参加による日本スポーツ協会認定スポーツドクターの単位認定(第74回大会から)
 - ◎日本体力医学会の活動の国内外に対する見える化
 - 1) 広報委員会と連携
- ・倫理委員会
 - ◎“診療放射線技師法違反容疑”に関する調査委員会の設置, 調査活動および報告書の作成
 - ◎「会員の懲戒に関する規程」の制定
- ・広報委員会
学会ホームページの管理, 運営およびコンテンツの検討

- ・男女共同参画推進委員会
男女共同参画に関する情報収集に努めた
- ・利益相反委員会
◎利益相反委員会委員名簿
委員長：永富良一
委員：片山敬章, 家光素行
◎学会誌 体力科学およびJPFISMの投稿規定の改訂(2018年9月)
利益相反に関する項の改訂(体力科学VI-C, JPFISM7-3)
- ・全国地方会実行委員会
地方会大会における非会員非招聘の発表抄録の体力科学誌への抄録掲載費が決まったことから, この掲載費を含めた学会本部との資金の流れを整理した
また新規の地方会からの運営についての相談に応えた
- 3) 第73回日本体力医学会大会の実施
大会長：戎 利光(福井工業大学スポーツ健康科学部学部長・主任教授)
会期：2018年9月7日(金)～9日(日)
会場：アオッサ・ハピリン
- 4) 令和2年度日本体力医学会健康科学アドバイザー
◎称号認定者
 - ・新規 8名(第29回研修会)
五十島輝美 角田 貢 鮫島久美
柴田景子 中谷英章 本田達朗
三宅亮輔 山口和輝
 - ・新規 8名(第30回研修会)
天方さゆみ 石井 隆 内田圭子
大城孝幸 菊池将史 十河直太
藤田直人 鷲見 暁
 - ・継続 19名
今西昭雄 高木 聖 矢野史也
内田弘美 相馬優樹 高橋政行
角田憲治 藤原陽子 吉居尚美
榎本紀行 大崎 栄 高橋 章
阿部恭子 荻澤佳奈 齋藤史子
馬場美佳子 正村謙二 真家克夫
三浦恭子
 - ・終身 5名
相澤 徹 大下聖治 北園忠美
橋本 眞 廣藤千代子
- 5) 令和2年度日本体力医学会名誉健康科学アドバイザー称号贈呈者
後藤勝正 須田和裕 成田和穂

3. 令和元年度会計(決算)に関する件

(宮川財務委員長)

令和元年度決算について, 当年度収支としては2,690,104円の黒字となり, 次年度繰越金は73,124,499円になったとの報告があった。本決算については公認会計士によるチェックが行われている事が併せて報告があり, 引き続き小林監事より監査報告が行われ, 審議の結果, 承認された。

4. 令和2年度事業計画に関する件(各委員長)

以下のとおり令和2年度事業計画についての報告がなされた。

- 1) 事業期間
2019年8月1日～2020年7月31日
- 2) 委員会活動
 - ・総務委員会
第77回栃木大会の大会長の推薦
学会総務に関わる規則の見直し
 - ・編集委員会
 - 1) ジャーナルの発行, 公開
JPFISM: Vol. 8-4～9-3 (合計6号)
体力科学: Vol. 68-4～69-3 (合計6号)
 - 2) 掲載論文数を増やす
[JPFISM]: 特集を掲載する.
 - 3) 学会誌投稿におけるCOIマネジメントの改訂
 - 4) 「ACSM運動処方指針(原著第10版)」の翻訳本の出版
 - 5) 学術刊行物「メディカルフィットネス」(仮称)の出版
 - ・学術委員会
 - 1) スポーツ医学研修会委員会
第30回スポーツ医学研修会(於日体大)の実施(学会HP・体力科学に案内を掲載)
 - 2) プロジェクト研究委員会
研究成果の第74回日本体力医学会大会(茨城)での報告
 - 3) 称号委員会
日本体力医学会健康科学アドバイザー◎の審査をスポーツ医学研修会後の申請により実施
 - 4) ガイドライン検討委員会
「少子高齢化」が進行し大きな社会問題となっているわが国における, 「健康寿命の延伸」を目指した活動なども視野に入れたガイドラインの作成などを, 他の学術団体との協力も含めて進めてゆく
また, 東京オリンピック2020を視野に入れた, 競技スポーツにおける安全対策についても検討してゆく
 - ・財務委員会
令和3年度予算案の作成
 - ・評議員選考委員会
ホームページと機関誌に従前通り評議員推薦のための案内を入れ, 平成28年度に改定された評議員申請要項に対する理解をはかり, 多くの会員に評議員推薦を促し, 評議員, とりわけ女性評議員数の増加をはかる
 - ・渉外委員会
 - 1) 国際交流事業
 - (ア) ECSS-JSPFISM Exchange Symposium
 - ①2020 Seville 2020.7.1-3
ECSS-JSPFISM Exchange Symposium
“Muscle Relaxation in Sports”
シンポジスト: 加藤考基(南山大学), 大高千明(奈良女子大学), Vogt, Tobias(ケルン体育大学: 座長)

- (会員のみに日本からSevilleへの航空券負担、滞在費・登録費ECSS負担)
- ②2021 Glasgow 提案受付 2019.10.1-11.15
- (イ) 第75回日本体力医学会大会(鹿児島) 2020.9.24-26における国際交流事業: ECSS 2019 Young Investigators Award Winnersの招聘(滞在費のみ負担)
- (ウ) ECSS 2020 Seville 2020.7.1-3 Young Investigators Award Winnersの日本体力医学会大会(三重大会)への招聘(滞在費のみ負担)
- (エ) 国際学術交流奨励賞(財務状況によっては見送り: 2020横浜スポーツ学術会議におけるシンポジスト招聘旅費支出のため)(予算80万円: 16名×5万円)
- (オ) 2020横浜スポーツ学術会議(2020.9.8-12)のシンポジウム企画
(http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html)
(シンポジスト招聘旅費負担)
- (カ) 他の国際学会との連携(委員派遣費負担の可能性あり)
- ①A FSM (アジアスポーツ医学会): 2019.12.13-15 Ryad, Saudi Arabia
- ②FIMS (国際スポーツ医学会): 2020.9.24-27 Athens, Greece (本学会と会期重複)
- ③IOC World Conference on Prevention of Injury and Illness 2020: 2020.3.12-14 Monaco (<http://www.ioc-preventionconference.org>).
Application deadline: 2019.9.13
- ④ACSS (Asian College of Sports Science 仮称) 準備委員会への参加依頼(2019.3月)(準備委員会2019.10.4-7 旅費・滞在費 準備委員会負担)
設立時参加国(予定): China, Singapore, Malaysia, Hong Kong, Chinese Taipei, Thailand, Vietnam and Japan
- 2) 国内関連学術団体との交流・連携
- (ア) 脳心血管病予防に関する包括的管理合同会議(広報資料印刷費負担)
- (イ) 国内学会との連携(シンポジスト旅費負担)
- ①第97回日本生理学会大会(2020) 他学会連携シンポジウム
- (ウ) 日本スポーツ協会: 日本体力医学会における講演・シンポジウム参加による日本スポーツ協会認定スポーツドクターの単位認定
- 3) 日本体力医学会の活動の国内外に対する見える化
- (ア) 広報委員会と連携
- ・倫理委員会
 - 1) 会員の懲罰に関する規程の制定
 - 2) 研究倫理審査事業の実施
 - 3) 会員の倫理意識向上の啓発
 - ・広報委員会
 - 1) ホームページの充実
 - 2) その他、本学会に関わる事項の広報活動
 - ・男女共同参画推進委員会
 - 男女共同参画に関する情報収集に努める
 - ・利益相反委員会
 - 国内外の学術および学会活動あるいは論文投稿に関する利益相反およびそのマネージメントに関わる最新の動向に関する情報収集と対応
 - ・全国地方会実行委員会
 - 1) 学会本部・鶴岡印刷と各地方会との間のやり取りを簡潔にする取り決めについて、運用上の問題点、改善すべき点を検討する
 - 2) 新規に立ち上がった地方会の運営上のアドバイスを求めに応じて提供する
 - 3) 第74回日本体力医学会大会の実施
大会長: 田中喜代次(筑波大学名誉教授)
会期: 2019年9月19日(木)~21日(土)
会場: つくば国際会議場
 - 4) 第75回日本体力医学会大会の準備
大会長: 徳田修司(鹿児島大学名誉教授・鹿屋体育大学特任教授)
会期: 2020年9月24日(木)~26日(土)
会場: 鹿児島大学(共通教育センター、稲盛会館)
5. 令和2年度会計報告(予算)に関する件
(宮川財務委員長)
- 令和2年度予算案が提示され、令和2年度の収入合計98,138,800円、支出合計99,184,800円であると説明された。ただ、9月18日に行われた理事会において、オンライン名簿の廃止が理事会で承認されたため、230万円の費用が削減されたので、黒字見込みである旨、報告された。
6. 名誉会員推薦に関する件(鈴木理事長)
- 名誉会員選考委員会(総務委員会兼務)にて名誉会員推薦内規に基づき以下の3名の候補者が推薦された旨の報告がなされ、審議の結果、承認された。
荒尾 孝、菅原正志、本間生夫(敬称略)
7. 評議員推薦に関する件
(西平評議員選考委員会業務執行役)
- 令和元年度評議員推薦に関しては13名の推薦があり、評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い、1名は研究業績が不足、それ以外の12名について評議員資格を有するとの報告に基づき、評議員会にて承認された旨、報告された。
- 新評議員(12名)
- | | | |
|-------|--------|--------|
| 窪田 敦之 | 河村 剛光 | 坂本 彰宏 |
| 相馬 優樹 | 高橋 祐美子 | 角田 憲治 |
| 中原 雄一 | 牧迫 飛雄馬 | 松尾 絵梨子 |
| 森村 和浩 | 柳田 信也 | 和坂 俊昭 |
8. 役員改選に関する件(武政総務委員長)
- 以下のとおり令和元年度社員総会後の役員について、選挙結果の報告がなされ、審議の結果、新理事25名、新監事4名が承認された。
- 新理事(25名)
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 赤間 高雄 | 井福 裕俊 | 碓井 外幸 |
| 太田 真 | 大野 誠 | 栗原 敏 |

小山勝弘	後藤勝正	下光輝一
新開省二	鈴木政登	須田和裕
武政徹	竹森重	田中喜代次
中里浩一	永富良一	成田和穂
西平賀昭	浜岡隆文	前田清司
宮内卓	宮川俊平	和気秀文
須永美歌子		
新監事（4名）		
井上茂	小林康孝	定本朋子
清田寛		

9. 第76回日本体力医学会大会（三重）開催について （武政総務委員長）

理事会から第76回（三重）大会長候補として加藤公

会員（鈴鹿回生病院病院長）が推薦されたことが報告され、審議の結果、承認された。

10. その他

・鈴木理事長より、近年の体力医学会業務見直し・廃止等により、財政が安定化し1億近い留保財産があるので、今後、この資金を基に、高齢者の健康問題や生活習慣病の最上流にある肥満の問題等に特化したプロジェクトチームを新たに発足し、これらの事項に関して本学会で既に発表された研究成果を中心に体系化し、会員は言うに及ばず社会還元する活動を学術委員会および編集委員会を中心に行う予定である旨、加えられた。

・加藤公第76回大会長より挨拶があった。

一般社団法人日本体力医学会新理事会（2019年9月）議事録

日時：2019年9月20日（金）午後6時00分～6時30分

場所：つくば国際会議場 4F 小会議室402

出席者：井福裕俊、碓井外幸、太田真、後藤勝正、
小山勝弘、下光輝一、鈴木政登、須田和裕、
須永美歌子、武政徹、田中喜代次、中里浩一、
永富良一、成田和穂、西平賀昭、前田清司、
宮内卓、和気秀文（各新理事）、
井上茂、小林康孝（各新監事）

欠席者：赤間高雄、大野誠、栗原敏、新開省二、
竹森重、浜岡隆文、宮川俊平（各新理事）、
清田寛、定本朋子（各新監事）

議事録作成者：鈴木政登

小林監事が仮議長として開会した。

【議事】

1. 理事長・副理事長・常務理事の選任について （小林監事）

過日開催された役員選挙の結果が報告され、理事長に鈴木政登理事、副理事長に碓井外幸理事、西平賀昭理事、常務理事に武政徹理事が選ばれたと報告があり、審議の結果、承認された。

なお、副理事長選挙の得票順で第1副理事長に碓井理事、第2副理事長に西平理事とすることが確認された。

鈴木理事が理事長に承認されたため、鈴木理事長を議長として議事が進められた。

2. 理事会日程について（鈴木理事長）

今後の理事会日程案が資料として提出され、以下の通り2020年9月までの理事会日程が決定した。

- ・2019年11月15日（金）
- ・2020年2月21日（金）
- ・2020年5月15日（金）
- ・2020年8月28日（金）
- ・2020年9月23日（水）※第75回鹿児島大会前日

3. 各種委員会委員長および委員について（鈴木理事長）

配布資料に基づき、今期の各種委員会委員長および委員について提案され、承認された。なお、編集委員会については1名辞退者が出たため、補充については次回理事会で審議することになった。

4. 理事会申し送りについて（鈴木理事長）

配布資料に基づき、各種委員会の申し送り事項が確認された。なお、以下称号委員会については訂正があった。

3P誤

称号委員会は、スポーツ医学研修会実行委員会（中里浩一委員長）、プロジェクト研究委員会（須田和裕委員長）とともに、学術委員会における三つの小委員会の一つであり、学術委員長は、これらの小委員会の統括を行っている。

3P正

称号委員会は、スポーツ医学研修会実行委員会（中里浩一委員長）、プロジェクト研究委員会（須田和裕委員長）、学会賞選考委員会（前田清司委員長）、ガイドライン検討委員会（宮内卓委員長）とともに、学術委員会における五つの小委員会の一つであり、学術委員長は、これらの小委員会の統括を行っている。

5. 事業計画について（鈴木理事長）

新理事長として、次の点を考慮して体力医学会の運営に努めたい旨、強調された。

- ・JPFISMのインパクトファクター1以上を目指す。
- ・近年の体力医学会業務見直し・廃止等により、財政が安定化し1億近い留保財産があるので、今後、この資金を基に、高齢者の健康問題や生活習慣病の最上流にある肥満の問題等に特化したプロジェクトチームを新たに発足し、これらの事項に関して本学会で既に発表された研究成果を中心に体系化し、会員は言うに及ばず社会還元する活動を学術委員会および編集委員会を中心に行う予定である旨、加えられた。

6. その他

- ・新たに就任した理事の自己紹介が行われた。
- ・新たに就任した理事に対して、体力科学別刷「日本体力医学会の源流と変遷」，“日本体力医学会と「体力科学」誌の生い立ちとあゆみ”および定款、定款施行細則等が配布され，“日本体力医学会”について

て理解を深めて頂くよう理事長より依頼があった。

- ・体力医学会役員各位に，“医師・コメディカルのためのメディカルフィットネス”（日本体力医学会編著，2019年9月13日初版発行，社会保険研究所発行）が献本され，最低2名以上に紹介してほしいと依頼された。

2019年度第1回日本体力医学会編集委員会議事録

日時：2019年9月18日(水) 15:30~16:30

場所：つくば国際会議場 4F 小会議室406

出席者：田中喜代次（委員長），

後藤勝正，和気秀文（各副委員長），

秋本崇之，家光素行，宇高潤，大藏倫博，

木田哲夫，小山勝弘，武政徹，竹森重，

十枝内厚次，中田由夫，成田和穂，藤田聡，

前田清司，宮下政司，吉川貴仁（各委員）

（編集事務局：佐藤信之，本間佳子，田中加奈子）

欠席者：赤間高雄，大島秀武，加藤晴康，川中健太郎，

北川淳，小宮秀明，小宮山伴与志，小山照幸，

重松良祐，田中英登，寺田新，中澤公孝，

沼尾成晴，浜岡隆文，藤井宣晴，麓正樹，

松尾知明，山内秀樹，渡辺賢（各委員）

（委任状16通）

【審議事項および報告事項】

1. 2018年度第1回編集委員会の議事録

上記の件につき確認された。

2. 特集号の企画について

田中編集委員長より「体力科学」および「JPFISM」特集号の企画について説明がなされた。

現在までに体力科学では第1回・第2回の特集が発行され，JPFISMでは第1回の特集が発行された。次号，体力科学Vol. 68, No. 5では第3回特集，JPFISM Vol. 8, No. 5では第2回特集が発行予定である。

順調にスタートし，会員からは称賛の声が上がっている。今後も年に1・2回の発行を目指す。領域のバランスを考え今後，整形外科や栄養学，心理学（精神科）の分野についての企画を検討していくこととした。

3. 編集委員会申し送り事項

田中編集委員長より，「新規取り組み事項」および「継続的な取り組み事項」について説明がなされた。

後藤副編集委員長より，海外エディターの招聘について現時点で候補者は4名おり，今後多様な地域から個人的な繋がりのある先生の推薦を各委員よりお願い

したいとのメッセージがあった。

出席委員より，学位論文の投稿・審査について，例として投稿時にカバーレターに学位論文との記載，審査についてはより迅速な判断をしてはとの意見がなされた。

種々議論を行った結果，リジェクト判断は迅速にし，その他は今後の検討課題とすることとなった。

4. 学会大会の「演題抄録登録システム」継続利用について

編集事務局より，『JPFISM No. 6に掲載される英文抄録登録データの適正管理』の為に，長年の継続利用で実績のある，UMINの「演題抄録登録システム」の利用について「予算化」を含めて，今後の学会大会での継続利用の提案があった。編集委員会においては，編集委員に了承を得て，理事会から学会大会事務局へ提案することとした。

5. 確認事項について

体力科学においてもJPFISMと同様に「Corresponding Author」を表示することとした。それに伴い，「体力科学」投稿規定に「責任著者の右にアスタリスク(*)を付し，責任著者のE-mailアドレスを記入する。」の一文を加え，投稿規定の改定が確認された。

6. JPFISM誌・体力科学誌の投稿状況と現状報告

(2018年9月1日~2019年8月31日現在)

田中編集委員長より，JPFISM誌・体力科学誌の投稿・掲載状況，審査期間，J-STAGEのアクセス統計について報告された。新規投稿についてはJPFISM誌：55編（前年比2編増），体力科学誌：67編（前年比11編減）であった。上位50ヶ国のアクセス統計に関しては，2018.8.1~2019.7.31までの12ヶ月間で，JPFISM前年比5,755件の増，体力科学前年比139,640件の増となっていることが報告された。

後藤副編集委員長より仮想インパクトファクターについてProceedingsが含まれておらず，正しくは0.49であると報告された。

2020年度第1回日本体力医学会編集委員会議事録

日 時：2019年11月1日(金) 17:30~19:00

場 所：AP品川 10階 Dルーム

出席者：後藤勝正（委員長）、

和気秀文、前田清司（各副委員長）、

宇高 潤、大槻 毅、木田哲夫、竹森 重、

十枝内厚次、中田由夫、沼尾成晴、藤井宣晴、

松尾知明、柳谷登志雄、山内秀樹、

渡辺 賢（各委員）、鈴木政登理事長

（編集事務局：佐藤信之、本間佳子、田中加奈子）

欠席者：赤間高雄、秋本崇之、家光素行、大藏倫博、

大島秀武、加藤晴康、川中健太郎、北川 淳、

小宮山伴与志、小山勝弘、小山照幸、重松良祐、

鈴木宏哉、田中英登、富田秀仁、中里浩一、

中澤公孝、成田和穂、浜岡隆文、福 典之、

藤田 聡、船瀬広三、麓 正樹、宮下政司、

吉川貴仁（各委員）（委任状23通）

編集委員会会議の冒頭で、鈴木政登理事長より新規事業の説明があり、学術委員会と共に協力の依頼があった。

【審議事項および報告事項】

1. 2019年度第1回編集委員会の議事録

上記の件につき確認された。

2. 投稿原稿の担当領域一覧

後藤編集委員長より「体力科学」「JPFISM」投稿原稿の領域分類及び担当編集委員について、確認がなされた。また、委員長および副委員長が分担して投稿原稿の領域分類を担当すること、投稿原稿は、原稿の領域分類により、当該領域を担当する委員長あるいは副委員長が確認し、その上で担当編集者を選任して査読プロセスにはいることの説明がなされ、承認された。

3. JPFISM 海外編集委員の推薦

後藤編集委員長より、PubMed 収載や国際誌を目指すため海外エディターを加えることとなり、候補者6名の内諾を得たとの説明があった。今回はアジア太平洋地域を中心としたエディターとなっているが、今後多様な地域から個人的な繋がりのある先生の推薦（内諾）を各委員に依頼した。今回推薦された候補者6名については承認された。

4. 特集号の企画 —今後について—

後藤編集委員長より、今後の特集号の企画について編集委員の中から担当をお願いしたいとの提案があり、3つの特集号の担当者が決定した。また、特集号の査読プロセスについて、特集号の著者は編集委員の推薦または承認によって選出されていることを勘案し、1名以上の査読委員による論文審査の過程を経て、最終的な判断を担当編集委員および編集委員長に委ね

ることの説明がなされ、承認された。

5. 学会大会に係る「体力科学」「JPFISM」誤掲載、再発防止策（案）

編集事務局より、学会大会に係る「体力科学」「JPFISM」誤掲載、再発防止策（案）が提案され、後藤編集委員長より説明がなされた。編集委員会で承認され、次回理事会へ提出することとした。

6. 投稿規定へ「Author contributions」の追加（案）

「体力科学」「JPFISM」の投稿規定へ著者の貢献（Author Contribution）を追加することとなり、Editorial Manager（EM）では、チェック項目を追加し、Author contributions は原稿に記載することとした。追加案の確認を行い訂正等がある場合には申し出て頂くこととした。細かい点の修正などは委員長・副委員長に一任してほしいとの説明があり、承認され、次回理事会へ提出することとした。

7. 確認事項

編集委員会申し送り事項について、新編集委員にむけて説明がなされ、特に審査に際しては「迅速な判断」と「教育的配慮」を推奨することが確認された。

また、J-STAGE オンライン投稿審査システムフロー図、編集委員会のメンバー（2019年9月21日～2023年総会）についても確認された。

8. 報告事項

後藤編集委員長より、鈴木理事長より問合せのあった JPFISM や体力科学に掲載された論文のキーワード検索について、J-STAGE 検索方法を作成し、会員へのメール配信、学会 HP 掲載が報告され「JPFISM」「体力科学」からの引用する際に活用できる環境を提供したことが報告された。

「体力科学」投稿規定改訂 [責任著者の表示] 修正文について報告されたが、再度修正され「責任著者名の右にアスタリスク（*）を付し、責任著者の E-mail アドレスを記入する」こととした。

「JPFISM」の引用状況について、資料に基づき、出席委員より説明がなされた。

編集事務局より、現在審査中の投稿について JPFISM 誌 8 件、体力科学誌 4 件で投稿数減の報告があった。そして、各委員へ投稿の呼びかけへの協力依頼があった。

9. その他

現在、原則として査読は編集委員以外の先生を推薦することとなっているが、迅速な審査のため、編集委員にも査読を依頼したいとの意見があった。後藤編集委員長より、臨機応変に対応してほしいとのお願いがあった。

第173回日本体力医学会関東地方会のご案内

開催日：令和2年3月14日(土) 13:00~17:00
 会場：日本大学理工学部 駿河台校舎 タワー・スコラ
 S302 (192名教室)
 東京都千代田区神田駿河台1-8-14
 (<https://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/surugadai/>)
 JR中央・総武線「御茶ノ水」駅 下車徒歩3分
 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 下車徒歩3分
 東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅 下車徒歩5分
 [一般演題の締め切り予定：令和2年2月16日(日)]

大会長：難波秀行 (日本大学理工学部一般教育教室)
 Tel/Fax: 047-469-5518
 E-mail: nanba.hideyuki@nihon-u.ac.jp

テーマ：運動が好きになり体力・運動能力を向上させる
 科学的支援

特別講演

「未来のアスリートを育成するために必要なこと」
 演者：森丘保典先生 (日本大学スポーツ科学部)

第24回日本体力医学会東海地方会のご案内

日時 令和2年3月15日(日) 9:00~17:00
 会場 三重県医師会館2F 大ホール
 三重県津市桜橋二丁目191番4
 内容 1. 一般演題
 2. シンポジウム
 「アスリートの医・科学サポートを考える -現状と課題-」
 3. 特別講演
 「スポーツ選手のメンタルサポートを実施して」
 米川直樹先生 (三重大学名誉教授)

一般演題募集

- ・一般演題は、E-mailでのみ受け付けます。
- ・抄録原稿はタイトル、演者・共同研究者名、所属機関、本文(背景、目的、方法、結果、結論)を含め900字以内で作成してください。
- ・エントリーシートに必要事項記入後、添付ファイル

にて大会事務局宛にお送りください。

- ・受付確認の返信が3日以内にならない場合は、ご連絡をお願いします。
- ・一般演題から1-2演題を選出し、「奨励賞」を授与致します。
- ・演題申込の締切日：2019年12月20日(金)
- ・送付先：鈴鹿回生病院スポーツ医学センター
 福田亜紀 E-mail: fukudashion@yahoo.co.jp
- ・エントリーシート (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/region/program/toukai_24.htm)

大会長 大会事務局

福田亜紀 (鈴鹿回生病院スポーツ医学センター)
 〒513-8505 三重県鈴鹿市国府町112-1
 TEL: 059-375-1212/FAX: 059-375-1717
 E-mail: fukudashion@yahoo.co.jp

日本女子体育大学大学院・附属基礎体力研究所合同フォーラム (基礎体力研究所第30回公開研究フォーラム)

総合テーマ「女性とオリンピック」

日時：令和2年1月25日(土) 13:00～17:00

開場(受付) 12:15

場所：日本女子体育大学総合体育館アリーナ

参加費：無料

お問い合わせ先：

合同フォーラム事務局

E-mail: forum2020@g.jwcpe.ac.jp

TEL: 03-3300-6175

URL: https://www.jwcpe.ac.jp/event_social/olympics/

プログラム

●13:00 開会

●13:15～14:10 セッション①

<オリンピックの見方>

座長：吉田 孝久 (シドニーオリンピック 陸上競技日本代表 日本女子体育大学教授)

演者：來田 享子 (中京大学教授)

宮嶋 泰子 (日本女子体育大学招聘教授)

●14:15～15:15 セッション②

<女性アスリートのキャリア>

座長：溝口 紀子 (バルセロナオリンピック 柔道 銀メダリスト 日本女子体育大学教授)

演者：菊池 彩花 (平昌オリンピック スピードスケート チームパシュート 金メダリスト)

畠山 愛理 (ロンドン・リオデジャネイロオリンピック 新体操日本代表)

ヨコ ゼッターランド (バルセロナ・アトランタオリンピック バレーボールアメリカ代表 銅メダリスト (バルセロナ) 日本女子体育大学准教授)

●15:15～15:45 休憩

大学院/基礎体力研究所ポスター発表/人見絹枝パネル展示

●15:45～15:55 ビデオ紹介

本学オリンピック候補学生紹介

●15:55～16:45 セッション③

<オリンピック選手のサポート>

座長：星川 佳広

(日本女子体育大学附属基礎体力研究所所長)

演者：石毛 勇介

(国立スポーツ科学センター副センター長)

演者：湯田 淳 (日本スケート連盟スピードスケート強化部長 日本女子体育大学教授)

●16:45 閉会

令和2年度 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導研究助成

研究期間 令和2年5月～令和3年3月31日

申請書受付期間 令和元年12月2日(月)～令和2年1月14日(火) 必着

申請書ダウンロード <http://www.health-net.or.jp/tyousa/josei/index.html>

詳細は本学会 website (<http://www.jspfsm.umin.ne.jp/>) まで

日本医学会だより

JAMS News

2019年10月 No.62
日本医学会

◆日本医学会公開フォーラム

第26回日本医学会公開フォーラムは「がん治療における正しい免疫療法の理解」をテーマに、10月26日（土）13:00~16:05、日本医師会館大講堂において開催。

組織委員長は、中釜 斉（日本癌学会理事長）。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

◆日本医学会シンポジウム

第156回日本医学会シンポジウムは「腸内細菌は健康と疾患の根源か？」をテーマに、11月16日（土）13:00~17:05、日本医師会館大講堂において開催予定。

組織委員は、大野博司（理化学研究所生命医科学研究センターチームリーダー・腸管免疫学）、金井隆典（慶應義塾大学医学部教授・消化器内科学）の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載中。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を8月30日（金）に開催し、2019年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員並びに特例委員が、今年度の推薦数：医学賞18、奨励賞31を審査した。

選考の結果、11月1日（金）の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・がん遺伝子 *RET* と細胞運動制御因子 Girdin の発見と機能に関する研究/高橋雅英（名大・分子病理学）
- ・健康寿命に関する疫学研究と健康寿命延伸に向けた提言/辻 一郎（東北大・公衆衛生学）
- ・福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明・治療に関する研究/戸田達史（東大・神経内科学）

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・シナプス結合則から大脳新皮質の基本構築を探る/日置寛之（順天堂大・神経生物学・形態学）
- ・生体イメージングによる Central Nervous System Lupus 病態解明と新規治療法開発への挑戦/宮部斉重（日医大・細胞生物学）
- ・代謝機構の理解に基づくヒト iPS 細胞由来心筋細胞の作製とその応用/遠山周吾（慶大・循環器内科学）
- ・ROCK シグナルによるエネルギー代謝調節機構の解明と糖尿病腎症への治療応用/的場圭一郎（慈恵医大・糖尿病・代謝・内分泌内科学）
- ・脳腎連関を介した腎臓保護メカニズムの解明/井上 剛（東大・CKD 病態生理学）
- ・clonal hematopoiesis に注目した自己免疫性疾患の病態解明/寺尾知可史（理化学研究所）

- ・解糖系酵素に焦点を充てた脳アミロイド血管症の病態解明と治療開発/井上泰輝(熊本大・脳神経内科学)
- ・がん治療と就労の両立支援に関する研究と就労支援ツールの開発/遠藤源樹(順天堂大・公衆衛生学)
- ・糖尿病とがん：両者を繋ぐ複雑な関係を明らかにするための疫学研究/後藤 温(国立がん研究センター社会と健康研究センター)
- ・オートファジー・リソソーム機能を標的とした難治性糖尿病性腎症に対する新規治療法の開発/久米真司(滋賀医大・糖尿病内分泌・腎臓内科学)
- ・稀少難治性疾患(POEMS症候群)に対する治療戦略の構築/三澤園子(千葉大・脳神経内科学)
- ・肺炎球菌ワクチン導入に伴う肺炎球菌の遺伝子組み換え機構および薬剤耐性菌拡散原因の解明/中野哲志(京大・臨床病態検査学)
- ・原発性肝癌における革新的治療開発を目指した腫瘍免疫とサルコペニアの網羅的解析/伊藤心二(九大・消化器・総合外科学)
- ・難治性耳管開放症に対する診断・治療に関する研究/池田怜吉(仙塩利府病院耳科手術センター)
- ・Neurovascular Unitの概念から導きだされる糖尿病黄斑浮腫の病態解明と新規治療戦略/白井嘉彦(東京医大・眼科学)

◆医学用語管理委員会

10月30日(水)、12月17日(火)に開催予定である。

◆遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

医学用語管理委員会のワーキンググループ(WG)で、9月19日(木)に開催された。7月8日に日本学術会議から「高等学校の生物教育における重要用語の選定について(改訂)」が公表され、新聞でも大きく報じられた。「優性、劣

性」を高校の教科書で「顕性、潜性」と表記することを決定したとする内容であった。現在WGで検討中の課題であることからWGでは、「社会、医学、医療の分野を含めて総合することが望ましい。」として日本学術会議に申し入れを行った。10月1日(火)に両者で意見交換の場を持った。

◆「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ(仮称)

医学用語管理委員会のワーキンググループであり、本年度新しく発足する(座長：森内浩幸 長崎大学大学院教授・小児科学)。

◆2019年度分科会用語委員会

本年度は12月17日(火)14:00~16:00、日本医師会館小講堂にて開催予定である。

◆子宮移植倫理に関する検討委員会

日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会は、14名の委員から成る委員会で、2019年度に新たに発足した(委員長：飯野正光 日本大学医学部特任教授/日本医学会副会長)。4月3日(水)、5月28日(火)、7月26日(金)、9月11日(水)にそれぞれ開催され、11月20日(水)に第5回委員会を開催予定。

◆日本医学会定例評議員会

第87回日本医学会定例評議員会を2020年2月28日(金)14:00~16:00、日本医師会館大講堂にて開催予定。主な議題は1. 2019年度年次報告、2. 2020年度事業計画、3. 日本医学会新規加盟学会の件、4. その他である。

◆移植関係学会合同委員会

第38回委員会を書面決議にて開催した。審議事項は、新規腎臓移植実施施設の認定(鳥取大学医学部附属病院)である。

編 集 後 記

体力科学68巻の最終号として本6号をお届け致します。本号では、低酸素の骨格筋細胞に与える影響という、骨格筋細胞生物学・分子生物学的研究の最先端に関する総説が掲載されており、チャレンジングな研究を推進している若手研究者の勢いを感じました。原著は4編でどれも力作です。資料も栄養と免疫に関する興味深いものです。この様に本号は様々な分野の原稿が掲載されており、改めて本誌が幅広い分野・領域をカバーしていることを実感致します。この利点を上手く活かして本誌を更に質的に発展させたいと考えます。そのためには、先ずより多くの投稿が必要です。会員の皆様、又、皆様の同僚や学生の方の最新の研究成果や読者の体力医学・科学関連分野の理解に役立つ総説などを、是非、「体力科学」[The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine]にご投稿頂きたく存じます。

又、本号では、本学会名誉会員2名の方の追悼文が載せられています。佐々木隆先生、森本武利先生、お二人共に素晴らしい研究業績を挙げられるのみならず、多くの研究者を育成され、又、本学会と体力科学全体の発展に顕著なご功績を挙げられました。お二人のご逝去は本学会にとって大変な損失ではありますが、先生方の御遺志を継いで本学会の発展に尽くしたいと思います。改め

ましてご冥福をお祈り申し上げます。

更に、本号では第74回大会のご報告と第75回大会案内の第一報が掲載されています。第74回茨城大会が盛会のうちに終了したことは、ひとえに田中喜代次大会長をはじめ、スタッフの皆様のお力によるものと考えます。ご尽力心より感謝申し上げます。第75回大会につきましては、鹿児島開催を前面に出したテーマになっており、魅力的な大会になることが期待されます。是非、皆様にご参加頂きたいと思えます。

最後に次号からは新しい体力医学会編集委員会組織で「体力科学」及び「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine」が編集されます。既に、新委員の間では今後の両誌の在り方について活発な議論が交わされています。機関誌の魅力増により日本体力医学会がさらに活性化され、それが雑誌の質をより上げていく、という良好な循環関係が作り出せるよう編集委員会として取り組む所存です。繰り返しになりますが、皆様には両誌への原著・総説のご投稿と、又、査読者に指名された場合には是非査読にご協力頂きたいと思えます。よろしくお願ひ申し上げます。

渡 辺 賢

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.68, No.6

体 力 科 学 第 68 巻 第 6 号

令和元年11月25日 印刷
令和元年12月1日 発行

編集兼発行者
発行所

田中喜代次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編集事務局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社